九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

クリト叙事詩(2)(III K, II K) : ウガリット語研究覚書 III

松田, 伊作

https://doi.org/10.15017/2332768

出版情報：文學研究. 68, pp.113-167, 1971-03-25. 九州大学文学部
バージョン：
権利関係：

クリト叙事詩 (2) (III K, II K)

—ウガリット語研究覚書 III—

松　田　伊　作

1. テクストについて　原碑板は二つともシリアの Aleppo 博物館に所蔵される．III K は高さ約 3.5 cm 幅約 9.5 cm の断片と，高さ約 15 cm 幅約 11 cm の断片として発掘された淡紅色の土板である．前者の断片の右側を後者の左側下部と接合して修復されたが，それでも通常の碑板と比べるとおよそ半分を失なった，極めて不完全な断片といえる．II K は高さ約 10.5 cm 幅約 10 cm，高さ約 12 cm 幅約 10 cm，約 7 cm×7 cm の3つの断片として発掘された，ところどころ赤味がかった黄土色の土板である．第2の断片の上側が第1断片の下側と，第3断片の左側が第2断片の右側下部と，それぞれ接合される．これも残存部分は3/5程度にすぎない．[1)]

I K, II K, III K という記号は Virolleaud が発表順に付けたもので，Kはこれらに書かれた物語の主人公クリト (KRT) の略号．物語の順序からみると，Virolleaud 自身すでに気付いていたように，II K よりも III K の方がはるかに I K に近い．[2)] すなわち I K で，失なった妻の代りとしてムシト・ハラヤにクリトが求婚するさまが語られたのを受けて，III K ではクリトの結婚に対する神々の祝福と豊かな子宝の予言が述べられ，II K では III K に約束されたクリトの子がすでに生れていて，病気のクリトの回復のさまなどが描かれる．

2. 母音再構について　本稿では初の試みとしてほぼ全テクストにわたって再構母音を付けた．[3)] その際次の点に特に留意した．

(1)　母音音素として，3つのアレフ字母の存在，および比較セム語学

の成果にもとづき，a, i, u の3つを想定する.[4] ウガリット語においてすでに起っていたと考えられる ai>ē, au>ō の変化は[5] 一応無視し，あくまでも a, i, u 3音素またはその組合せを推定する.

(2) このことからも分るように，我々の再構形は，すべての比較言語学的方法による再構祖形と同じく，決して「発音」を示すものではなく，[6] 所与の子音テクストを土台として比較セム語学的に構成されたウガリット語文法体系の中の如何なる型に，各単語が帰属するかを示すにとどまる.

(3) 単語形成の各型に含めるべき母音については Gordon (UT), Aistleitner (GU), Meyer 等の再構したものを参照した.

(4) 名詞については，例えばヘブライ語の「セゴレート名詞」と対応するものについてはその対応に基づきほぼ機械的に再構したが，子音のみ対応して型の対応が求め難いものについては憶測にとどまり，文脈によって語義のみ想定される名詞は変化語尾だけ記して語幹の母音はつけなかったものもある.

(5) 動詞については就中次の2点を特記しておく．まず，定形動詞を「未完了形」(接頭型) と「完了形」(接尾型) とにのみ分け，屢々論ぜられる yaqtulu型 と yaqat(t)alu 型との対立は認めない.[7]「未完了」(imperfect),「完了」(perfect) といってもこれは便宜上の呼称でその意義は別途研究を要する問題である．次に問題となるのは動詞語幹の第2根字の母音であるが，これについてもヘブライ語・アラビア語との対応に基づいて行なったことは勿論である．対応のない動詞はその語義から類推した.

(6) 以上略述した常識的ともいえる比較言語学的方法による，いわば外部からの母音再構の他に，ウガリット語の場合はウガリットで同時に発見されているアッカド語音節文字による資料がある．特にその人名にはウガリット語の形態構造を暗示するものもあって大いに参考になるのであるが,[8] これら固有名詞が示す母音をそのまま適用することは危険だと考える．一般に固有名詞には言語の古い層が残っていることが多いからである．具体的な一例をあげると，mlk≪王≫ はヘブライ語 melek～malk-

によって malk- と再構されるが，これは abi-milku, milku-aḫu, yadu-milku 等の人名の指示する milk- と衝突する．このような場合，我々は比較言語学の方法による結果を優先し，人名は傍証にとどめた．ただし我々のテクストに現われる人(神)名については全面的に音節文字表記に拠るべきことはいうまでもない．

母音の表記に当っては，印刷上の都合も考慮し，長母音はすべて同一字母を2つ並べて記した．重子音についても同様である．

註 1) CTA 所載の碑板の写真と記述による．

2) *Syria* XXII (1941) p. 105

3) 部分的なテクストの母音再構は H. Donner の Ugaritismen in der Psalmenforschung. *ZAW* 79 (1967) p. 322-350 で試みられたものが筆者の知る唯一のものである．

4) 例えば Moscati: CGS §8.75 参照．

5) Gordon, UT §4.7 §5.18

6) Aistleitner, GU の中では "Aussprache" という表現がとられている．

7) 拙論『アナト神話』(「文学研究」第65輯，1968) p. 52-53 参照．最近 T.L. Fenton は The Absence of a Verbal Formation **yaqattal* from Ugaritic and North-west Semitic. *JSS* XV (1970) p. 31-41 において第1根字 *l, n,'* の動詞の表記を改めて詳しく検討し，**yaqattal* 形は北西セム語以外の，一部のセム語においてのみ作られたものであることを示唆した．

8) ウガリット語の母音再構と音韻論を固有名詞から研究した M. Liverani の論文 (PTU p. 2 に引用) は未見．PTU においてもこの問題は詳しく論ぜられている．

3. 転写本文・訳文

再構した母音と重子音は7号活字で示す．原文の破損箇所は [ ] で囲む，したがって [ ] の中の文字は推読されたものである．原文を修正した箇所は< >でかこむ．

訳文中，( ) の中は訳者による意味の補充である．

III K (=CTA 15, UT 128)

I

約40行欠

1 [mᵘrᵃġᵍⁱbᵃ.] (1) yᵃdᵃ . [m] (1)	飢えた者に手を（差しのべ？）， 渇ける者に手を差しのべ，
2 mᵘẓᵃmᵐⁱ'a . yᵃdᵃ . mᵃṯᵃkᵃt	
3 tᵃṯᵃṯkⁱrᵃn . [ ]dn (2)	私たちに飲ませてくれる……
4 ʿⁱm . kᵘrⁱtⁱ . mswnh	クリトとともに……
5 'arḫᵘ . tᵃzġᵘᵘ . lᵃʿⁱglⁱhᵃᵃ	牝牛がその仔に向ってなく（ように）， 兵の子らが母に向って（泣くように）， ウドムの人らはいとどに嘆く．」
6 bⁱnᵘᵘ . ḫpṯⁱ . lᵃ'umᵐᵃhᵃᵃtⁱhᵘmᵘ	
7 kⁱtᵃnᵘᵘḫᵘᵘnᵃ . 'udmᵘᵘmᵃ	
8 wᵃyᵃʿnⁱyᵘ · kᵘrⁱtᵘ . ṯᵃʿᵘ	気高きクリトは答える

II

約20行欠

1 [ ]	
2 [ ] ṯᵃrᵘ	……牡牛
3 ['ali]yn (3) . bᵃʿlᵘ	……いと強きバアル
4 [ ]mn (4) . yᵃrⁱḫᵘ . zⁱblᵘ	……王子ヤリフ
5 [……kᵘṯᵃ]rᵘ wᵃḫᵃsⁱsᵘ	……クサルとハシス
6 [ ]n (5) . rᵃḥmᵃyᵃ . rᵃšᵃpᵘ zⁱblᵘ	……ラハマヤ，王子ラシャフ，
7 [ʿᵃ]dᵃtᵘ (6) . 'ilⁱⁱmᵃ . ṯlṯᵘhᵘᵘ	三層の神々の集い．
8 ['ap]nⁱkᵃᵃ . kᵘrⁱtᵘ . ṯᵃʿᵘ.	そこで気高きクリトは……
ʿ[ ](7)r 9[ ]bᵃbᵃⁱtⁱhᵘ . (8) yᵃšⁱⁱtᵘ.	かれの家に……おく．
ʿrb 10[ ]h . (9) ytn	
w[ ](10)u . lytn	
11['aḫᵃ](11)r . mᵃġⁱyᵃ ʿᵃ[dᵃ]tᵘ (11) . 'ilⁱⁱmᵃ	神々の集団が着いた後に，
12[wᵃ]yᵃʿᵃn (11) . 'ali[yn.] (11) bᵃʿlᵘ	いと高きバアルは言う．
13[ ]tbᵃʿ (12) . lᵃlᵃṯⁱpᵃᵃnᵘ	「来れ，善意のもの，
14['ilᵘ dⁱ](13)pidⁱ.	心優しきエールよ，
lᵘᵘtᵃbᵃrᵣⁱk 15 [kᵘrⁱtᵃ.] (13) ṯᵃʿᵃ.	祝福して下さい，気高きクリトを．

$l^{uu}t^{i}m^{a}r^{r}$. $n^{a}{}'^{a}m^{a}n^{a}$ [$\dot{g}^{a}lm^{a}$.] (13) $'il^{i}$.	強めて下さい，エールの優しきしもべを」
$k^{aa}s^{a}$. $yi'\underline{h}^{a}d^{u}$ [$'il^{u}$. b^{a}] $y^{a}d^{i}$. (14)	エールは片手に盃をとる，
$k^{a}rp^{a}n^{a}$. $b^{a}m^{a}$ [$y^{a}m^{i}n^{i}$.] (15)	酒甕を右の手に.
$b^{a}r^{raa}k^{u}m^{a}$ (16) . $y^{a}b^{a}r^{ri}k^{u}$ [$'^{a}bd^{a}h^{u}$] (17)	確かに祝する，そのしもべを，
$y^{a}b^{a}r^{ri}k^{u}$. $'il^{u}$. $k^{u}r^{i}t^{a}$ [$\underline{t}^{a}{}'^{a}$.	エールは祝する，気高きクリトを.
$y^{a}m^{a}r^{ru}$] m^{a} (18) . $n^{a}{}'^{a}m^{a}$ [n^{a}.] (19) $\dot{g}^{a}lm^{a}$ $'il^{i}$	エールの優しきしもべを強める.
21 $'a$ [$\underline{t}^{\underline{t}a}t^{u}$. $t^{i}q^{qa}$] $\underline{h}^{u}$ (19) . $y^{aa}k^{u}r^{i}t^{u}$.	「きみがめとる女は，クリトよ，
$'a\underline{t}^{\underline{t}a}t^{u}$ 22 $t^{i}q^{qa}\underline{h}^{u}$. $b^{ai}t^{a}k^{aa}$.	きみが家にめとる女，
$\dot{g}^{a}lm^{a}t^{u}$. $t^{a}\check{s}^{a}{}'^{r}i^{b}u$ 23 $\underline{h}^{a}\underline{z}^{i}r^{a}k^{aa}$.	きみが屋敷に入れる乙女は，
$t^{a}l^{i}d^{u}$. $\check{s}^{a}b'^{a}$. $b^{i}n^{ii}m^{a}$ $l^{a}k^{aa}$	七人の息子をきみに生もう.
24 $w^{a}\underline{t}^{a}m^{aa}n^{a}t^{a}$ $\underline{t}^{i}tm^{a}n^{a}t^{a}$ (20)25 $l^{a}k^{aa}$	そして八番目にティトマナトをきみに.
$t^{a}l^{i}d^{u}$. $y^{a}\underline{s}^{i}b^{a}$[.] $\dot{g}^{a}lm^{a}$	かの女は少年ヤシブを生もう，
26 $y^{aa}n^{i}q^{a}$. $\underline{h}^{a}l^{a}b^{a}$. $'a$[$\underline{t}^{i}$] $r^{a}t^{i}$ (21)	アシラの乳を吸う者を，
27 $m^{aa}\underline{s}^{i}\underline{s}^{a}$. $\underline{t}^{a}d^{a}$. $b^{a}t^{u}l^{a}t^{i}$. [$'^{a}n^{a}t^{i}$] (21)	処女アナトの胸をすする者を.
28 $m^{u}\check{s}^{a}n^{nl}q^{a}$[t] (22)	乳母……

III

約15行欠

1 [ ]	
2 [mid . $r^{aa}m^{u}$.] $k^{u}r^{i}t^{u}$ (23)	大いに高められよ，クリト.
3 [$b^{a}t^{au}k^{i}$. $r^{u}p^{aa}{}'i$.] $'ar\underline{s}^{i}$ (23)	地の集団のさ中で，
4 [$b^{a}p^{u}\underline{h}r^{i}$] (23) . $q^{i}b^{u}\underline{s}^{i}$. $d^{a}t^{a}n^{i}$	ダタンの集会の群にて，
5 [$w^{a}t^{i}$] $qr^{a}b^{u}$. $w^{a}l^{aa}d^{u}$ (23)	やがてかの女は生むだろう
6 [b^{i}] $n^{aa}t^{i}$ $l^{a}k^{aa}$ (24)	娘らをきみに.
7 $t^{a}l^{i}d^{u}$. $p\dot{g}t^{a}$. t[ ]t	かの女は生もう，幼女……を.

8 $t^al^id^u$. $p\dot{g}t^a$. [ ]	かの女は生もう，幼女……を.
9 $t^al^id^u$. $p\dot{g}t^a$. [ ]	かの女は生もう，幼女……を.
10 $t^al^id^u$. $p\dot{g}t^a$. [ ]	かの女は生もう，幼女……を.
11 $t^al^id^u$. $p\dot{g}t^a$. [ ]	かの女は生もう，幼女……を.
12 $t^al^id^u$ p[$\dot{g}t^a$](25)	かの女は生もう，幼女……を.
13 mid . $r^{aa}m^u$ [. $k^ur^it^u$](26)	大いに高められよ，クリト，
14 $b^at^{au}k^i$. r^up^{aa}'i . 'ar[$ṣ^i$](26)	地の集団のさ中で，
15 $b^ap^uḫr^i$. $q^ib^uṣ^i$. $d^at^an^i$	ダタンの集会の群にて.
16 $ṣ^aġ^ir^at^ah^in^{naa}$. 'ab^{a}k^{ki}r$^un^{aa}$	その末娘に私を嗣がせよう.」
17 $t^ab^ar^{ri}k^{uu}$. 'il^{uu}m^a . t^i'it^{aa}y^{uu}	祝福しつつ神々は去る，
18 t^i'it^{aa}y^{uu} . 'il^{uu}m^a . l^a'ahl^{i}h^{u}m^u	神々は去る，その幕屋へ.
19 $d^{aa}r^u$ 'il^i . $l^am^ašk^an^{aa}t^ih^um^u$	エール一族はそのすみかへ.
20 $w^at^iqr^ab^u$. $w^al^{aa}d^a$ b^in^{ii}<m^a>. l^ah^u(27)	かの女はやがて彼の息子らを生む，
21 $w^at^iqr^ab^u$. $w^al^{aa}d^a$ $b^in^{aa}t^i$(28) l^ah^u	かの女はやがて彼の娘らを生む.
22 m^ak^a . $b^aš^ab$'^{i} . $š^an^at^i$	見よ，七年のあいだに
23 b^in^{uu} . $k^ur^it^i$. $k^am^ah^um^u$. $t^id^{da}r^u$	クリトの息子らは約束のように，
24 'ap. $b^in^{aa}t^u$. $ḫ^ar^ay^a$ 25 $k^am^ah^um^u$	ハラヤの娘らもまたそのように.
$w^at^aḫs^us^u$ 'a$t^ir^at^u$ 26 $n^idr^ah^u$	そこでアシラは思い出す，彼の誓いを.
w^a'il^at^u . p[lah](29)	女神は彼の約束を.
27 $w^at^iš^{sa}$'u . $g^{aa}h^a$. w^a[$t^aṣ^{ii}ḫ^u$](30)	声を挙げてかの女は叫ぶ.
28 p^ah m^a' . 'ap . k^u[r^it^u p^ar^{ra}](31)	「見よ，クリトもまた（約束を）破るのか，
29 'ut^an^{aa} . n^idr^a[h^u m^alk^u](32)	王がその誓いを変えるのか.
30 'apr . h[ ](33)	……

約7行欠

IV

約5行欠

1 pᵃ[ʻᵃnᵃhᵘ lᵃhᵃdmⁱ yⁱṯpᵃdᵘ] (34)
2 gᵃmᵃ . lᵃ['aṯᵃtⁱhᵘ . kⁱyᵃṣⁱⁱḥᵘ] (35)
3 šmᵃʻⁱⁱ [. lᵃmᵘṯⁱtᵘ . ḥᵃrᵃyᵃ] (36)
4 ṭbᵃḫⁱⁱ[.]šᵃ[mnᵃ]. (37) mᵃrⁱⁱ'ikᵃᵃ
5 ptᵃḥⁱⁱ . [rᵃḥᵃ]bᵃtᵃ (37). yᵃⁱnⁱ
6 ṣⁱhⁱⁱ . šᵃbʻⁱⁱmᵃ[.]ṯᵃᵘrⁱyᵃ
7 ṯᵃmᵃᵃnⁱⁱyⁱⁱmᵃ . [ẓᵃ]byⁱyᵃ (37)
8 ṯᵃᵘrᵃ . ḫᵃbⁱrⁱ[. rᵃbᵇᵃ]tⁱ (37)
9 ḫᵃbⁱrⁱ[. ṯᵃrᵃrᵃtⁱ] (37)
10 [ ]ʻb[ ] . š[ ]m (38)
11 [ ]r[ ]š[ ] qm (39)
12 id . u[ ]t (40)
13 lḥn šqʻ[ ]aḫd[ ] (41)
14 tⁱšmᵃʻᵘ . mᵘṯⁱtᵘ . [ḥᵃ]rᵃyᵃ
15 tⁱṭbᵃḫᵘ . šᵃmnᵃ . [mᵃ]rⁱⁱ'ihᵃ
16 tⁱ[p]tᵃḥᵘ . rᵃḥᵃbᵃtᵃ . yᵃⁱnⁱ
17 ʻᵃlᵃⁱhᵘ . ṯᵃᵘrᵃhᵘ . tᵃšᵃʻrⁱbᵘ
18 ʻᵃlᵃⁱhᵘ . tᵃšᵃʻrⁱbᵘ . ẓᵃbyᵃhᵘ

足を足台におき,
大声で彼は妻に叫ぶ.
「聞け, ムシト・ハラヤよ,
「屠れ, 脂ののったお前の牛を,
開け, 酒の樽を.
呼べ, 私の“牡牛”を七十頭,
私の“かもしか”を八十頭.
大いなるハビル,
水豊かなハビルの[8]“牡牛”を.

ムシト・ハラヤは聞く.
脂ののったかの女の牛を屠り,
酒の樽を開く.
かれの前にかれの“牡牛”を来らせ,
かれの前にかれの“かもしか”を来らせる.

19 ṯᵃᵘrᵃ . ḫᵃbⁱrⁱ[.]rᵃbᵇᵃtⁱ
20 ḫᵃbⁱrⁱ . ṯᵃrᵃrᵃtⁱ
21 bᵃⁱtᵃ . kᵘrⁱtⁱ . tᵃbᵘᵘ'uᵘnᵃ
22 lᵃmᵃ . mᵃᵘṯᵃbⁱ[ ] (42)
23 wᵃlᵃḫᵃⁱmᵃtⁱ gᵃⁱrⁱ . tᵃqᵃdᵈᵃmᵘᵘ (43)
24 yᵃdᵃ . bᵃṣᵃʻⁱ . tⁱšlᵃḥᵘ
25 ḥᵃrbᵃ . bᵃbᵃšᵃrⁱ . tᵃšⁱⁱtᵘᵘnᵃ
26 [wᵃtᵃ]ʻnⁱⁱ (44). mᵘṯⁱtᵘ . ḥᵃrᵃyᵃ
27 [lᵃlᵃḥᵃ]mⁱ (44). lᵃšᵃtⁱyⁱ . ṣᵃᵃḥtⁱⁱkᵘmᵘ

クリトの家に彼らは入る,
……すまいに.
客の幕屋へ彼らは進む.
手を鉢にかの女は伸べる,
刀を肉に彼らは当てる.
ムシト・ハラヤは言う
「飲み食いのために, あなた方を呼

びました.

28 [dᵢbḫᵘ . lᵃ]kᵘrᵢtᵢ[45] . bᵃ'lᵢkᵘmᵘ　あなた方の主クリトは犠牲を持っています……

約15行欠

V

約2行欠

1 [tᵢṭbᵃḫᵘ . šᵃm]nᵃ . [mᵃrᵢᵢ'ihᵃ][46]　かの女は脂ののった牛を屠り,

2 [tᵢptᵃḫᵘ . rᵃhᵃ]bᵃtᵃ . [yᵃᵢnᵢ][47]　酒の樽を開く.

3 [　　]rp[　　][48]

4 [　　ḫ]br[　　][49]

5 bḫr[　]t[　　][50]

6 lᵃmᵃṯᵃᵘbᵢ[　]t[　　][51]　……すまいへ.

[　] 7 [tᵃqᵃdᵈᵃmᵘ][52]　……かの女は進む.

yᵃdᵃ . bᵃsᵃ'ᵢ . tᵢ[šlᵃ]ḫᵘ[52]　手を鉢にかの女は伸べる,

8 [ḫᵃrbᵃ . bᵃ]bᵃšᵃ[rᵢ]. tᵃšᵢᵢtᵘᵘnᵃ[52]　刀を肉にかれらは当てる.

9 [wᵃtᵃ'nᵢᵢ]. mᵘṯᵢtᵘ . ḫᵃrᵃyᵃ[52]　ムシト・ハラヤは言う

10 [lᵃlᵃḫᵃ]mᵢ . lᵃšᵃtᵢyᵢ . ṣᵃᵃḫtᵢᵢkᵘ[mᵘ][52]「飲み食いのためにあなた方を呼びました.

11 [　　]brk . t[　　]

12 ['ᵃl.][53] kᵘrᵢtᵢ . tᵃbkᵢᵢnᵃ　クリトのことをあなた方は泣いている,

13 [kᵃmᵃ] rᵢgmᵢ . [54] ṯᵃᵘrᵢᵢmᵃ　牡牛がほえるように,

14 [　　] [55] mᵃᵃtᵢᵢmᵃ . tᵃbkᵢᵢnᵃ　死ぬ者達……あなた方は泣く

15 [　]t . wᵃbᵃlᵢbᵇᵢ . tqb[　]

16 [　]ml . mtm . uṣb'[t]

17 [ ]tr . šrk . il

18 'ᵃrᵢbᵃ . šᵃpšᵢ . lᵘᵘyᵃmġᵢᵢ[19] kᵘrᵢtᵘ .　日が沈むとクリトが着く,

ṣᵃb'i'a . šᵃpšᵢ[20] bᵃ'lᵘnᵢy .　日が隠れると我らの主は.

$w^a y^i m l^a k^u$ [ ]ṣb ʿln.	そして支配する……
$w^a y$[ ]y [$k^u r^i$]t^u $t^{a\text{ʿ}u}$	気高きクリトは……
$^{\text{ʿ}}l^{a i} n^i$. $b^a ḫ r^i$	Hr で我々に（？）
[ ] . $'a t^a t k^a$. ʿl	……きみの妻……
[ ]k $y^a š^a ṣ^i$'i	……彼は出す……
[ ]$ḫ^a b^i r$. $r^a b^a t$	……大いなるハビル
[$ḫ^a b^i r$. $t^a rr^a$]t il d	……水豊かなハビル
[pid] . banšt	
[ ]mlu	
[ ]tm	

約18行欠

VI

šmʿ . l[ ]mt[ ]m l[ ]ṭnm	
ʿdm . <t^i> [$lḥ^a$]m^u . $t^a š t^i y^u$	……食べ，飲む……
$w^a t^a$ʿn^{ii} . $m^u t^i t^u$ $ḥ^a r^a y^a$	ムシト・ハラヤは言う．
$l^a l^a$[$ḥ^a$]m^i . $l^a š^a$[$t^i y^i$] . $ṣ^{aa} ḥ t^{ii}$-$k^u m^u$	「飲み食いさせるため，あなた方を呼びました．
$d^i b$[$ḥ^u$. $l^a k^u r^i t^i$. 'a]$d^u n^i k^u m^u$	あなた方の主クリトは犠牲を持っています．」
ʿl . $k^u r^i t^i$[.]$t^a b^{aa}$'$u^u n^a$	クリトの前に彼らは来る．
$k^a m^a$ $r^i g m^i$. t^{au}[$r^{ii} m^a$] $r^i g m^u$. $h^u m^u$	牡牛がほえるように彼らは語る．
bdrt [ ] krt	
[ ]	

II K (=CTA 16)

I (=UT 125 : 1-62)

[l^a]$k^u r^i t^i$	クリトの(書)

2 kᵃ[kᵃ]lbⁱ . (63) bᵃbᵃⁱtⁱkᵃᵃ . nᵃ'tᵘqᵘ .	「犬のようにあなたの 家の中を 我々はよぎる,
kᵃ'inrⁱ 3 'apᵃ . ḫᵃštᵃkᵃᵃ	野良犬のようにあなたの歓びの部屋を.
'ap . 'abᵘ . 'ikmᵃᵃtᵘmᵃ 4 tᵃmᵘᵘtᵃn	父上, 何故あなたも死なねばならぬのか.
'uḫᵃštᵘkᵃᵃ . lᵃntnⁱ 5 'ᵃtᵃqᵃ .	それともあなたの歓びは嘆きに変ったのか,
bᵃdⁱ . 'aṯᵗᵃtⁱ . 'abᵘ ṣᵃᵃrⁱrⁱyⁱ	父上, 悲しむ女によって.
6 tᵃbkⁱykᵃᵃ . 'abᵘ .	父上, あなたを嘆く,
ġᵘᵘrᵘ . bᵃ'lⁱ 7 ṣᵃpᵃnⁱ	バアル・サパンの山が.
ḥᵃᵃlᵘmᵃ . qᵃdⁱšᵘ	聖なる鳥,
8 'aᵃnⁱyᵘ . ḥᵃᵃlᵘmᵃ . 'adⁱⁱrᵘ .	偉大なる鳥が哭く,
ḥᵃᵃlᵘ 9 rᵃḥᵃbᵘ . mᵘkᵃnⁿⁱpᵃtᵘ	翼を大きく拡げた鳥が.
'ap 10 [kᵘ]rⁱtᵘ . bⁱnᵘmᵃ . 'ilⁱ	一体クリトはエールの子か,
šᵃpᵃḥᵘ 11 lᵃṭⁱpᵃᵃnⁱ . wᵃqᵃᵃdⁱšⁱ	善意のもの・聖なるものの裔か.」
'ᵃl 12 'abⁱhᵘ . yᵃ'rᵘ<bᵘ> (64)	父の前に彼は進み,
yᵃbkⁱyᵘ 13 wᵃyⁱšnᵃnᵘ .	泣き, 歯ぎしりし,
yⁱⁱtᵃnᵘ . gᵃhᵘ 14 bᵃkⁱy .	泣きながら声を出す.
bᵃḥᵃyʸⁱkᵃᵃ . 'abᵘnᵘ . <nⁱ>šmᵃḫᵘ (65)	「わたし達の父上, あなたの 生きているのが嬉しい,
15 bᵃlᵃᵃmᵃᵃtⁱkᵃᵃ . nᵃgⁱⁱlᵃn .	あなたが死んでいないことを我々は喜ぶ.
kᵃkᵃlbⁱ 16 bᵃbᵃⁱtⁱkᵃᵃ . nᵃ'tᵘqᵘ	犬のように我々はあなたの家の中をよぎる,
kᵃ'inrⁱ 17 'apᵃ [.] ḫᵃštⁱkᵃᵃ .	野良犬のようにあなたの歓びの部屋を.
'ap . 'abᵘ . kⁱmᵃᵃtᵘmᵃ 18 tᵃmᵘᵘtᵃn	父上, 何故あなたまで死なねばなら

ぬのか.

19 'uḫ^{a}štu^{u}k^{aa} . l^{a}ntn^{i} ‘^{a}t^{a}q^{a} . それともあなたの歓びは嘆きに変ったのか,

b^{a}d^{i} . 'at̲^{ta}t^{i} 'ab^{u} . ṣ^{aa}r^{i}r^{i}y^{i} 父上, 悲しむ女によって.

20 'ikm^{a} . y^{u}rg^{a}m^{u} . どうして言われるのか,

b^{i}n^{u} 'il^{i} 21 k^{u}r^{i}t^{u}[.] 『クリトはエールの子,

š^{a}p^{a}ḥ^{u} . l^{a}ṭ^{i}p^{aa}n^{i} 22 w^{a}q^{aa}d^{i}š^{i} 善意のもの・聖なるものの裔』と.

'u'il^{uu}m^{a} t^{a}m^{uu}t^{uu}n^{a} それとも神々でも死ぬのか,

23 š^{a}p^{a}ḥ^{u} . l^{a}ṭ^{i}p^{aa}n^{i} . l^{aa}y^{a}ḥ^{uu} 善意のものの裔は生きながらえぬのか.」

24 w^{a}y^{a}‘n^{i}y^{u} . k^{u}r^{i}t^{u} . t̲^{a}‘^{u} すると気高きクリトは答える.

25 b^{i}n^{ii} . 'al . t^{a}bk^{ii}n^{ii} . 「わが子よ, わたしのことを泣くな,

'al 26 t^{a}d^{u}m^{m} . l^{i}y . わたしのために嘆くな,

'al t^{a}k^{u}l^{l} . b^{i}n^{ii} . わが子よ, 汲みほすな,

27 qr^{a} . ‘^{ai}n^{i}k^{aa} . お前の眼の泉を.

m^{u}ḫ^{ha} . ri'š^{i}k^{aa} 28 'udm^{a}‘^{a}t^{a} . お前の頭の鉢から涙を.

ṣ^{i}ḥ . 'aḫt^{a}k^{aa} 29 t̲^{i}tm^{a}n^{a}t^{a} 呼べ, お前の妹のティトマナトを,

b^{i}t^{ta} . ḥ^{u}mḥ^{u}<m>^{u}h^{a} (66)30 d^{a}nn^{u} . 情熱の強いむすめを.

t^{a}bk^{ii}n^{ii} . w^{a}t^{a}d^{u}m^{mu}. l^{i}y [ ] (67) かの女が私のことを泣き, 私のために嘆くだろう (?)

31 [ġ^{aa}]z^{i}r^{u} (68) . 'al. t^{a}rg^{u}m . l^{a}'aḫt^{i}k^{aa} 壮者よ, お前の妹に語るな,

32 [ ]r[ ]l[ ]dm (69) . 'aḫtk^{aa} ……お前の妹……

33 y^{a}d^{a}‘t^{i} . k^{i}r^{a}ḥ^{i}m^{a}t 私は知っている, かの女は憐れみ深いのだ.

34 'al . t^{a}š^{i}t . b^{a}š^{a}d^{ii}m^{a}[.]m^{u}m^{ma}h^{a} 野でかの女が叫び声を上げたりしないよう,

35 b^{a}s^{a}mk^{at}^{i} . ṣ^{a}'at^{a} . n^{a}pš^{i}h^{a} 高原でその魂の息吹きを.

36 [t]mt[n] (70) . ṣ^{a}b^{a}'a . r^{a}b^{ba}t^{i} 37 š^{a}pš^{i} . 待て(?), 女主なる太陽が隠れる

のを,

wᵃtᵃgᵍᵃhᵃ . nⁱyrⁱ [38] rⁱbᵇᵃtⁱ . よろずの光が輝やくのを.

wᵃrᵘgᵘm . lᵃ'aḫtⁱkᵃ [39] ṯⁱtmᵃnᵃtⁱ そして,妹のティトマナトに語れ,

kᵘrⁱtᵘnᵘ . dᵃᵃbⁱḥᵘ [40] dⁱbḥᵃ 『我々のクリトは犠牲を捧げている,

mᵃlkᵘ . ʿᵃᵃšⁱrᵘ [71][41] ʿᵃšrᵃtᵃ 王は馳走をふるまっている.

qᵃḥⁱⁱ . 'apᵃkⁱⁱ bᵃyᵃdⁱ [72] 片手できみの鼻を蔽え,

[42] [bᵃ]r[lᵃtᵃ]kⁱⁱ . [73] bᵃmᵃ . yᵃmⁱⁱnⁱ 右手できみの咽喉を.

[43] lⁱkⁱⁱ . škᵘnⁱⁱ . さあ,住め,

ʿᵃl ṣⁱrᵃᵃrᵃtⁱ [44] 'adᵘnⁱkⁱⁱ きみの主人の高みに.

šᵃqrⁱbⁱⁱ[ ] [74][45] bᵃmᵃgᵃnⁱkⁱⁱ . 差し出せ……きみの献げ物で……

wᵃyᵃrṣⁱⁱ [75] . lᵃkᵘllⁱ 彼はすべてを喜び受けるだろう.』」

[46] 'apnkᵃᵃ . ġᵃᵃzⁱrᵘ 'ilḥᵃ'u そこで壮者イルハウは,

[47] [mᵃ]rᵘḥᵃhᵘ . [76] yi'ḫᵃdᵘ . bᵃyᵃdⁱ 片手に彼の槍をとる,

[48] [g]rgrᵃhᵘ . [77] bᵃmᵃ . yᵃmⁱⁱnⁱ 右手に彼の矛を.

[49] [wᵃ]yⁱqrᵃbᵘ . [78] trẓẓh そして近づく……

[50] [ ]k . [79] mᵃġⁱyhᵘ . wᵃġᵃlⁱmᵃ 彼が着くと暗くなった.

[51] ['a]ḫᵃtᵘhᵘ . šᵃ'ibᵃ . yᵃṣᵃ'at . 彼の妹は水汲みに出たところ,

mᵃrᵘḥᵃhᵘ [52] lᵃtⁱlⁱⁱ yᵃṣᵘbᵘ . かれは槍を丘に立て,

pᵃnᵘhᵘ . ṯᵃġᵃrᵃ [53] yⁱⁱṣᵃ'u 顔を戸口に向ける.

hᵃlmᵃ . 'aḫᵃhᵃ . tᵃpᵘᵘhᵘ かの女が兄を視るや否や,

[54] [kⁱslᵘ]hᵃ . [80] lᵃ'arṣⁱ . tⁱṯᵃbⁱrᵘ 腰が(よろけて)地にくずおれる.

[55] [ʿᵃl . pᵃᵃ]nⁱ[.] [81] 'aḫⁱhᵃ . tᵃbkⁱyᵘ 兄の前でかの女は泣く.

[56] ['ap . mᵃᵃ]rⁱṣᵘ [82] mᵃlkᵘ 「それでは王は病気なの,

[57] [ ] [83] kᵘrⁱtᵘ . 'adᵘnᵘkᵃᵃ あなたの主クリトは.」

[58] [wᵃyᵃʿnⁱyᵘ .] [84] ġᵃᵃzⁱrᵘ . 'ilḥᵃ'u 壮者イルハウは答える,

[59] [lᵃᵃ mrṣ] [85] mᵃᵃrⁱṣᵘ . mᵃlkᵘ 「王は病気ではない,

[60] [kᵘ]rⁱtᵘ . [86] 'adᵘnᵘkᵘmᵘ きみ達の主クリトは.

[61] [kᵘrⁱtᵘ . dᵃᵃ]bⁱḥᵘ . [87] dⁱbḥᵃ クリトは犠牲を捧げている,

62 [mᵃlkᵘ ʿᵃᵃ]šⁱrᵘ.(88) ʿᵃšrᵃṯᵃ ,　　王は馳走をふるまっている.

II (=UT 125 : 63-120)

63 ʿ[ ]
64 b[ ]
65 t[ ]
66 w[ ]
67 pġ[t]
68 lk[ ]
69 ki[ ]
70 wḫ[ ]
71 my[ ]
72 aṯ[t]
73 aḫk[ ]
74 tr ḥ[t]
75 wtṣḥ[ ]
76 tšqy[ ]
77 tr . ḥt[ ]
78 wmsk. tr[ ]
79 tⁱqrᵃbᵘ . ʾaḫᵃ[hᵃ . wᵃtᵃṣⁱⁱḥᵘ](89)　　かの女は兄に近づいて呼ばわる.
80 lᵃmᵃᵃ . tⁱbʿᵃrᵘnⁱ[ ](90)　　「何故あなたは私を(不安に)燃えさせるの,
81 mⁱnᵘᵘ . yᵃrḫⁱ . kⁱmᵃᵃ[rⁱṣᵘ](91)　　何か月かれは病気なの,
82 mⁱnᵘᵘ . kⁱdᵃᵃwⁱⁱ . kᵘrⁱ[tᵘ](92)　　どれだけクリトは臥してるの」
83 wᵃyᵃʿnⁱyᵘ . ġᵃᵃzⁱrᵘ[. ʾilḥᵃʾu](92)　　壮者イルハウは答える.
84 ṯᵃlᵃᵃṯᵃ . yᵃrḫⁱⁱmᵃ . kⁱmᵃᵃ[rⁱṣᵘ](91)　　「三か月かれは病気だ,
85 ʾarbᵃʿᵃ . kⁱdᵃᵃwⁱⁱ . kᵘ[rⁱtᵘ](92)　　四か月クリトは臥している.
86 mᵃndᵃʿ . kᵘrⁱtᵘ . mᵃġᵃ[yᵃ](93)　　多分クリトは去ってしまった.

87 $w^aq^ibr^a$. $t^{ii}ṣ^ar$.	きみは墓を作るがよい,
$q^i[br^a]$ (94)88 $t^{ii}ṣ^ar$.	きみは墓を作るがよい.
$t^ar^um^m$. tnm^a(95) [ ]	塚をきずくがよい,
89 k^am^a . $nkyt^i$. $ṯ\dot{g}r$[ ]	門を備えた(?)宝庫のように,
90 k^am^a . $š^ukl^ult^i$. [ ]	囲みのように…….
91 ‘rym . lbl[ ]	
92 bl[ ]ny[ ]	
93 lbl . sk . w[ ]h	
94 ybmh . šb‘[ ](96)	
95 $\dot{g}zr$. $ilḥu$ t[ ] l	
96 trm[.]$tṣr$. trm[.]tqt(97)	
97 $t^abk^iy^u$. $w^at^išn^an^u$.	かの女は泣き, 歯ぎしりし,
$[t^{ii}t^a]n^u$ 98 g^ah^a . b^ak^iy(98)	泣きながら声を出す.
$b^aḫ^a[y^{yi}k^{aa}$. ’a]b^un^u 99 $n^iš m^aḫ^u$	「わたし達の父上, あなたの生きているのが嬉しい.
$b^al^{aa}m^{aa}t^ik^{aa}$. $n^ag^{ii}l^an$	あなたが死んでいないことを私達は喜ぶ.
100 $k^ak^alb^i$. $[b^a]b^{ai}t^ik^{aa}$. $n^a‘t^uq^u$	犬のように私達はあなたの家の中をよぎる,
101 k^a’inr^i[. ’ap^a .]$ḫ^aš t^ik^{aa}$	野良犬のようにあなたの歓びの部屋を.
102 ’ap . ’ab^u $k^im^{aa}t^um^a$. $t^am^{uu}t^an$	父上, 何故あなたまで死なねばならぬのか.
103 ’$uḫ^aš t^uk^{aa}$. $l^ab^ak^iy^i$ ‘$^at^aq^a$	それともあなたの歓びは嘆きに変ったのか,
104 b^ad^i . ’$at^ta t^i$ ’ab^u . $ṣ^{aa}r^ir^iy^i$	父上, 悲しむ女によって.
105 ’u’$il^{uu}m^a$. $t^am^{uu}t^{uu}n^a$	それとも神々でも死ぬのか,
$š^ap^aḥ^u$ 106 $[l^a]ṭ^ip^{aa}n^i$. $l^{aa}y^aḥ^{uu}$(99)	善意のものの裔は生きながらえぬの

か.

t^{a}[b]k^{i}yk^{aa} 107 'ab^{u} . 父上，あなたを嘆く，

ġ^{uu}r^{u} . b^{a}'l^{i} . ṣ^{a}p^{a}n^{i} バアル・サパンの山が.

ḥ^{aa}l^{u}m^{a} 108 q^{a}d^{i}š^{u} . 聖なる鳥，

'a^{a}n^{i}y^{u} . ḥ^{aa}[l^{u}]m^{a} . 'ad^{ii}r^{u} 偉大なる鳥が哭く，

109 ḥ^{aa}l^{u} . r^{a}ḥ^{a}b^{u} . m^{u}k^{a}[n^{ni}p^{a}t^{u}] 翼を大きく拡げた鳥が.

110 'ap . k^{u}r^{i}t^{u} b^{i}n^{u}[m^{a} . 'il^{i}] 一体クリトはエールの子か，

111 š^{a}p^{a}ḥ^{u} l^{a}ṭ^{i}p^{aa}n^{i}[. w^{a}q^{aa}d^{i}š^{i}] 善意のもの，聖なるものの裔か.」

112 b^{a}k^{ii}m^{a} . t^{a}'r^{u}[b^{u}. '^{a}l . 'ab^{i}h^{a}] (100) 泣きながらかの女は父の前に出る.

113 t'rb . ḥ[ ]

114 bṯtm . t[ ]

115 šknt . [ ]

116 bkym[ ]

117 ġr . y[ ]

118 ydm . [ ]

119 apn . [ ]

120 [ ]b[ ]

約3行欠

III (=UT 126 : III)

約30行欠

1 y^{uu}ṣ^{a}q^{u} . š^{a}m[n^{u}] あぶらが注がれる……

2 'n[-/.]tr (101) . 'arṣ . w^{a}š^{a}m^{a}^{i}m ……地と天

3 s^{a}bl^{a}t . 'iṣ^{ii}m^{a} (102) . 'arṣ^{i} 地の樹々の果

4 l^{a}ksm^{i} . m^{i}yt^{u} (103) . '^{a}i^{i}n^{i} 麦には泉のしめり，

5 l'arṣ^{i} . m^{a}[ṭ^{a}]r^{u}. b^{a}'l^{i} 地にはバアルの雨，

6 w^{a}l^{a}š^{a}d^{ii} . m^{a}ṭ^{a}r^{u} . '^{a}l^{i}y^{i} 野には高き者の雨.

7 n^{a}'^{i}m^{u} . l'arṣ^{i} . m^{a}ṭ^{a}r^{u} . b^{a}'l^{i} バアルの雨は地にこころよく，

8 w^{a}l^{a}š^{a}d^{ii} . m^{a}ṭ^{a}r^{u} . '^{a}l^{i}y^{i} 高き者の雨は野に.

9 n^{a}ʿ^{i}m^{u}[.]l^{a}ḫ^{i}ṭ^{ta}t^{i} . b^{a}g^{a}n^{ni} (104)	畑の小麦にこころよく,
10 b^{a}m^{a}[.]n^{ii}r^{a}t^{i} . ksmm	耕地では麦に.
11 ʿ^{a}l t^{a}l[m^{i}] k^{a}ʿṭrṭrm (105)	畦の上に芳香の如く.
12 n^{a}š^{a}'u . [r]i'š^{a} . ḫ^{aa}r^{i}ṯ^{uu}m^{a}	農夫らは頭を挙げる,
13 lẓr[.]ʿ^{aa}d^{i}b^{i} . d^{a}g^{a}n^{i}	穀物を備えるものに向って.
k^{a}l^{a}y^{a} 14 l^{a}ḫm^{u} . [b^{a}]d^{a}n^{ni}h^{u}m^{u} . (106)	彼らの壺からパンが尽きた,
k^{a}l^{a}y^{a} 15 y^{ai}n^{u} . b^{a}ḫ^{i}mt^{i}h^{u}m^{u} .	彼らの革袋から酒が尽きた,
k^{a}[l^{a}]y^{a} 16 š^{a}mn^{u} b^{a}q^{u}[bʿ^{a}t^{i}h^{u}m^{u}] (107)	彼らの杯から油が尽きた.
17 bt krt . t[ ] (108)	

約18行欠

IV (=UT 126 : IV)

約16行欠

1 [ ]	
2 'il^{u} . š^{a}m^{a}ʿ^{a} . 'amr^{a}k^{a}	「エールはきみの言葉を聞いた.
p^{aa}h[t^{a}] 3 k^{a}'il^{i} .	エールのようにきみはよく視,
ḫ^{a}k^{a}mt^{a} . k^{a}ṯ^{au}r^{i} . l^{a}ṭ^{i}p^{aa}n^{i}	牡牛・善意のものの如くきみは賢い.
4 ṣ^{i}ḫ . n^{a}g^{ga}r^{a} . 'il^{i} . 'ilš^{a}	呼べ, 神の工匠イルシを,
'il[š^{a}] 5 w^{a}'a^{a}ṯ^{ta}t^{a}h^{u} . n^{a}g^{ga}r^{a}t^{a}[. 'i]-	イルシとその妻なる女神らの工匠
lh^{aa}t^{i}	を.」
6 kḫṣ . kmʿr[ ]	……?
7 y^{a}ṣ^{ii}ḫ^{u} . n^{a}g^{ga}r^{a} 'il^{i} . 'ilš^{a},	かれは呼ぶ, 神の工匠イルシを,
8 'ilš^{a} . n^{a}g^{ga}r^{a} . b^{ai}t^{i} . b^{a}ʿl^{i}	バアルの家の工匠イルシ[9]と
9 w^{a}'a^{a}ṯ^{ta}t^{a}h^{u} . n^{a}g^{ga}r^{a}t^{a} . 'ilh^{aa}t^{i}	その妻なる女神らの工匠を.
10 w^{a}y^{a}ʿ^{a}n (109) . l^{a}ṭ^{i}p^{aa}n^{u}[.]'il^{u} d^{i}pi-	すると善意のもの, 心優しきエール
[d^{i}]	は言う.
11 šm^{a}ʿ . l^{a}n^{a}g^{ga}r^{u} 'il^{i} 'il[š^{u}]	「聞け, 神の工匠イルシよ,
12 'ilš^{u} . n^{a}g^{ga}r^{u} b^{ai}t^{i} b^{a}ʿl^{i}	バアルの家の工匠イルシ[13]と.
13 w^{a}'a^{a}ṯ^{ta}t^{u}k^{a} . n^{a}g^{ga}r^{a}t^{u} . 'il[h^{aa}t^{i}]	きみの妻なる女神らの工匠よ.

14 ʿalⁱⁱ . lᵃṯᵃkmⁱ . bnwn　　建物の肩に上れ,

15 lnḫnpt . mšpy (110)　　？

16 ṯᵃlᵃᵃṯᵘkᵘmᵘ mᵘṯᵃrrⁱyᵘ (111)　　きみ達の三人は水注ぐ者（？）

17 [ ] . lġr . gm . ṣḥ (112)

18 [ ]r[ ]m

約27行欠

V (=UT 126 : V)

1 ʿr[ ]

2 ʿr[ ]

3 ʿr[ ]

4 wy[ ]

5 bʿd[ ]

6 yaṯr[ ]

7 bdk . [ ]

8 ṯᵃnnᵘtⁱhᵘᵘ[ ] (113)　　二度目に……

9 ṯᵃlṯᵘtⁱhᵘᵘ[(114)　　三度目に……

wᵃyᵃʿᵃn] 10 lᵃṭⁱpᵃᵃnᵘ . ['ilⁱ . dⁱpidⁱ　　善意のもの・心優しきエールは言い出す.

mⁱy 11 bᵃ'ilⁱⁱmᵃ . [yⁱⁱdᵃyᵘ . mᵃrṣᵃ]　　「神々の中の誰が病を退け得るか,

12 gᵃrᵃᵃšᵘmᵐᵃ . zⁱ[blᵃnᵃ　　悪鬼を追い払って.」

'in . bᵃ'ilⁱⁱmᵃ] 13 ʿnᵃyᵃhᵘ .　　神々の中の誰も彼に答えなかった.

yᵃ[ṯᵃnⁱyᵘ . yᵃṯᵃlⁱⁱṯᵘ] (115)14 rⁱgmᵃ　　二度, 三度と言葉を重ねる,

mⁱy bᵃ['ilⁱⁱmᵃ . yⁱⁱdᵃyᵘ] 15 mᵃrṣᵃ　　「神々の中の誰が病を退け得るか,

gᵃrᵃᵃšᵘ[mᵐᵃ . zⁱblᵃnᵃ]　　悪鬼を追い払って」

16 'in . bᵃ'ilⁱⁱmᵃ . ʿᵃ[nᵃyᵃhᵘ .　　神々の中の誰も彼に答えなかった.

yᵃrᵃbᵇⁱʿᵘ] (116)17 yᵃḫᵃmᵐⁱšᵘ . rⁱgmᵃ　　四度, 五度と言葉を重ねる,

[mⁱy . bᵃ'ilⁱⁱmᵃ] 18 yⁱⁱdᵃyᵘ . mᵃrṣᵃ　　「神々の中の誰が病を退け得るか,

gᵃ[rᵃᵃšᵘmᵐᵃ . zⁱblᵃnᵃ]　　悪鬼を追い払って」

19 'in . b^{a}'il^{ii}m^{a} . '^{a}n^{a}[y^{a}h^{u} .]	神々の中の誰も彼に答えなかった.
y^{a}t̲^{a}d^{di}t̲^{u} 20 y^{a}š^{a}b^{bi}'u . r^{i}gm^{a} .	六度，七度と言葉を重ねる，
[m^{i}y .] b^{a}'il^{ii}m^{a} 21 y^{ii}d^{a}y^{u} . m^{a}rṣ^{a}	「神々の中の誰が病を退け得るか，
g^{a}r^{aa}ǧ^{u}m^{ma} z^{i}bl^{a}n^{a}	悪鬼を追い払って」
22 'in . b^{a}'il^{ii}m^{a} . '^{a}n^{a}y^{a}h^{u}	神々の中の誰も彼に答えなかった.
23 w^{a}y^{a}'^{a}n . l^{a}ṭ^{i}p^{aa}n^{u} . 'il^{u} . d^{i}pid^{i} (117)	そこで善意のもの・心優しきエール
	は言い出す.
24 t̲^{u}b^{uu} . b^{i}n^{uu}y^{a} . l^{a}m^{a}t̲b^{a}[t^{i}]k^{u}m^{u}	「帰れ， わが子らよ， お前達のすみ
	かへ，
25 l^{a}k^{a}ḥt̲^{i} . z^{i}bl^{i}k^{u}[m^{u} .	お前達の支配の座へ.
'a]n^{aa}k^{u} 26 'iḥt^{a}r^{i}š^{u} .	私が自分で術を使って，
w^{a}[ ]š^{a}k^{aa}n^{u} 27 'aš^{a}k^{uu}n^{u} .	必ずやつくり出そう
y^{aa}d^{ii}t^{a} . [m^{a}]rṣ^{i} (118)	病を退ける女を，
g^{aa}r^{i}š^{a}t^{a} (119)28 z^{i}bl^{a}n^{i} .	悪鬼を追払う女を.」
r[ ] (120) . y^{a}mlu'^{u}	……彼は満たす.
29 n'm . rt̲[ ]	……
y^{a}qr^{u}ṣ^{u} 30 dt . bpḫ[ ]mḫt	彼はつまむ……
31 [ ]tnn	
32 [ ]tnn	
5行欠	
38 bi[ ]	
39 lt̲[ ]	
40 ks[ ]	
41 kr[pn]	
42 at. š['tqt]	
43 š'd[ ]	
44 rt .[ ]	
45 'ṭr[ ]	

46 bp . š[ ]
47 il . pd[ ]
48 ʿiirii m a .[d i'i i . mh . 町々を……飛び,
p a d a r ii m a] 49 d i'i i . š[rr] 村々を……飛べ.
50 mr[ṣ]
51 zb[ln]
52 t[ ]
53 [ ]

約8行欠

VI (=UT 127)

1 [m u] t u . dm . ḫ u t t 死よ，お前は砕けよ,
š a ʿt a q a t u dm 2 l i'i i . シャアタカトよ，お前は強くあれ.」
w a t i t b a ʿu . š a ʿt a q a t u そこでシャアタカトは去る.
3 b a i t a . k u r i t i . b aa'u . t a b uu'u クリトの家にかの女は入らねばならぬ.
4 b aa k ii t u . t a gl i y u . w a t a b uu'u 泣きながらかの女は突き進む,
5 n aa ṣ i r a t u . t a b uu'u . pn ii m a 咽びつつかの女は奥地へ入る.
6 ʿiirii m a . t a d'u u . mh (121) 町々を……かの女は飛び,
7 p a d a r ii m a . t a d'u u . šrr 村々を……かの女は飛ぶ.
8 ḫ a ṭ ṭ a m a . t a ʿm u t u .[ʿ]ṭr[pt]m (122) 杖でかの女は病魔を撃つ,
9 z i bl a n a . ʿal . ri'š i h u 悪鬼の頭を.
10 w a t a ṯ uu b u . t a rḫ u ṣ a . nn uu . b a d a ʿa t i かの女は再び彼の汗を洗い,
11 n a pš a h u . l a l a ḥ m i . t i pt a ḥ u 彼ののどをパンへと開く,
12 b a rl a t a h u . l a ṯ rm i 彼の食欲を糧へと.
13 m u t u . dm . ḫ a t t a . 「死」は砕け,
š a ʿt a q a t u 14 dm . la'aa n u シャアタカトは彼に勝った.
w a y a pq u d u 15 k u r i t u . ṯ a ʿu 気高きクリトは気が付く.
y i š sa'u . g a h u 16 w a y a ṣ ii ḥ u 声を上げて彼は叫ぶ.

šma‘ lamutitu [17] ḥarayaa	「聞け，ムシト・ハラヤよ，
ṭbaḫii . ’imminra [18] wa’ilḥamu	屠れ，私が食べる羔を．
mgṯ . wa’iṯramu	私が摂る仔山羊を．」
[19] tišma‘u . muṯitu . ḥarayaa	ムシト・ハラヤは聞く．
[20] tiṭbaḫu . ’imminra . wa<yi>lḥamu (123)	かの女は屠る，彼が食べる羔を．
[21] mgṯ . wayiṯramu	彼が摂る仔山羊を．
hinnii yauma [22] watnaa	見よ，一日（経ち），二日（経つと），
yaṯuubu . kuritu . la‘aadihu	クリトは戻る，平常に．
[23] yaṯibu . lakis’i malki	彼は坐る，王の椅子に．
[24] lanaaḫati . lakaḥṯi . darkati	玉座に，支配の座に．
[25] ’ap . yaṣibu . yaṯibu . bahaikali	ヤシブもまた王宮に坐る．
[26] wayawasirannuu . ggnuhu	彼の内の声が彼を唆す．
[27] lik . la’abikaa . yaṣibu .	「行け，父の許へ，ヤシブよ，
lik [28] la['a]bikaa . wargum .	父の許へ行って語れ．
ṯanay [29] lakur[rit . ’adunikaa (124) .]	お前の主なるクリトに告げよ．
’ištami[‘] [30] watiiqaġ[. ’udna	『よく聴き，耳をすませ．
kiiġazuu . ġaazuuma] [31] tidaabaru .	侵略者が襲えばあなたは追われる，
wa[ġuu]ramaa[. taṯwiyu]	そして山に住むだろう．
[32] šaqalta . baġlti . yadakaa	過ちをあなたは犯した．
[33] laatadiinu . diina . ’almanati	寡婦の訴えをあなたは取上げ得ず，
[34] laatiṯpaṭu . ṯapaṭa . qaaṣira . napši	苦しむ者の裁きを裁けない．
[35] kiimaa . ’aḫaata . ‘aršu . madwii	げにもあなたは病の床と兄弟になり，
[36] ’aniišta . ‘aršu . ziblani	悪鬼の床と親しんだ．
[37] rid . lamalki . ’amlukku	王位を下りよ，私が王になる．
[38] ladarkatikaa ’aṯibannaa	あなたの王座を（下りよ），私がそれに坐る．』」
[39] yitba‘u . yaṣibu ġalmu .	若者ヤシブは去り，
‘al [40] ’abihu . ya‘rubu .	父の前にまかり出で，

$y^{i}\check{s}^{\check{s}a}$'u $g^{a}h^{u}$ [41] $w^{a}y^{a}\underset{\cdot}{s}^{ii}\underset{\cdot}{h}^{u}$	声を上げて叫ぶ.
$\check{s}m^{a}$' m^{a}' . $l^{a}k^{u}r^{i}t^{u}$ [42] $\underline{t}^{a}$'^{u}	「さあ聞け，気高きクリトよ，
'$i\check{s}t^{a}m^{i}$' . $w^{a}t^{ii}q^{a}\dot{g}$ 'udn^{a}	よく聽き，耳をすませ.
[43] $k^{ii}\dot{g}^{a}z^{uu}$. $\dot{g}^{aa}z^{uu}m^{a}$. $t^{i}d^{da}b^{a}r^{u}$	侵略者が襲えばあなたは追われる，
[44] $w^{a}\dot{g}^{uu}r^{a}m^{a}$. $t^{a}\underline{t}w^{i}y^{u}$.	そして山に住むだろう.
$\check{s}^{a}q^{a}lt^{a}$ [45] $b^{a}\dot{g}lt^{i}$. $y^{a}d^{a}k^{aa}$.	過ちをあなたは犯した.
$l^{aa}t^{a}d^{ii}n^{u}$ [46] $d^{ii}n^{a}$. '$alm^{a}n^{a}t^{i}$	寡婦の訴えをあなたは取上げ得ず，
$l^{aa}t^{i}\underset{\cdot}{t}p^{a}\underset{\cdot}{t}^{u}$ [47] $\underline{t}^{a}p^{a}\underset{\cdot}{t}^{a}$ $q^{aa}\underset{\cdot}{s}^{i}r^{a}$. $n^{a}p\check{s}^{i}$.	苦しむ者の裁きを裁けず，
$l^{aa}t^{ii}d^{a}y^{u}$ [48] $\underline{t}^{aa}\check{s}^{ii}m^{a}$. '$^{uu}l^{i}$. $d^{a}l^{i}$.	貧者の子を掠める者共を退け得ない.
$l^{a}p^{a}n^{i}k^{aa}$ [49] $l^{aa}t^{a}\check{s}^{a}l\underset{\cdot}{h}^{i}m^{u}$. $y^{a}t^{aa}m^{a}$.	あなたは養えない，あなたの前の孤児を，
b^{a}'d^{a} [50] $k^{i}sl^{i}k^{aa}$. '$alm^{a}n^{a}t^{a}$.	あなたの後の寡婦を.
$k^{ii}m^{aa}$ [51] '$a\underset{\cdot}{h}^{aa}t^{a}$. '$^{a}r\check{s}^{u}$. $m^{a}dw^{ii}$	げにもあなたは病の床と兄弟になり，
'$an^{i}\check{s}t^{a}$ [52] '$^{a}r\check{s}^{u}$. $z^{i}bl^{a}n^{i}$	悪鬼の床と親しんだ.
$r^{i}d$. $l^{a}m^{a}lk^{i}$ [53] '$aml^{u}k^{u}$	王位を下りよ，私が王になる.
$l^{a}d^{a}rk^{a}t^{i}k^{aa}$. '$a\underline{t}^{i}b^{a}$ [54] nn^{aa}	あなたの王座を(下りよ)，私がそれに坐る」
$w^{a}y^{a}$'$n^{i}y^{u}$. $k^{u}r^{i}t^{u}$ $\underline{t}^{a}$'^{u} .	すると気高きクリトが答える.
$y^{a}\underline{t}b^{u}r$ [55] $\underset{\cdot}{h}^{au}r^{aa}n^{u}$. $y^{aa}b^{i}n^{ii}$.	「ホーラーンが砕くがよい， わが子よ，
$y^{a}\underline{t}b^{u}r$. $\underset{\cdot}{h}^{au}r^{aa}n^{u}$ [56] ri'$\check{s}^{a}k^{aa}$[.]	ホーラーンが砕くがよい，お前の頭を.
'$\underline{t}t^{a}r^{a}t^{u}$. $\check{s}^{u}m^{u}$. b^{a}'l^{i} [57] $q^{a}dq^{a}d^{a}k^{aa}$ (125) .	バアルの名・アシタルテがお前の頭蓋を.
$t^{a}q^{u}l^{la}n$. $b^{a}g^{a}bl^{i}$	山の中へ落ちるがよい
[58] $\check{s}ntk$. $b\underset{\cdot}{h}pnk$. wt'n	……？」
[奥付] $s^{a}p^{a}r^{a}$ '$il^{i}m^{i}lk^{u}$ $\underline{t}^{a}$'$^{a}y^{a}$	書いたのはイリミルク，献げたのは

4. テクスト注

：はその箇所の異なる読み方，その主な提唱者名を（　）に入れて，またその読み方の根拠となった箇所を<以下で示す．「原」は上掲の Virolleaud 翻刻の楔形文字原文を指す．

1) (Virolleaud, etc.)
2) : [　] bdn (Virolleaud, etc.)
3) (Virolleaud, etc.)
4) : [　]yrḫ (CTA)
5) : [　　] (Gordon)
6) (Virolleaud): [w']dt (CTA)
7) : '[p]r(?)(Virolleaud)
8) : bbth (Gordon, etc.)
9) (CTA, etc.): [b]h (Virolleaud): [b]h (Driver)
10) (Gordon): w[ ]lu (Virolleaud): wyṣu (Driver): wy[ ] (Gray)
11) (Virolleaud, etc.)
12) (Gordon, CTA): [w]tb' (Virolleaud): [t]tb' (Driver): [p]tb'(Ginsberg)
13) (Virolleaud, etc.)
14) (Virolleaud, CTA): [b]yd (Gordon, Gray)
15) (Virolleaud, etc.)
16) : [y]brkm (Virolleaud)
17) : [mlk (?)](Virolleaud, Driver): [il.　](Gordon): [　](Gray)
18) (Virolleaud, Driver, CTA): [　]m (Gordon, Gray)
19) (Virolleaud, etc.)
20) (Virolleaud, Gordon): wṯmn tṯmnm (Ginsberg): wṯmn tṯtmnm (CTA) : wṯmn tṯtmn (Gray)
21) (Virolleaud, etc.)
22) (Virolleaud, Gray): [　] (CTA): [t ilm] (Driver): [t ilm n'mm] (Gordon)
23) (Virolleaud, etc. <II 13-15)
24) (Virolleaud <III 21): bn. tlk (CTA): [　]n. tlk (原, Gordon, Gray)
25) : p[ġt.ṯtmnt] (Driver)
26) (Virolleaud, etc.)
27) (Ginsberg, CTA): bn lh (原, Gordon, Driver, Gray)
28) (Gintberg, CTA): bnm (原, Gordon, Driver, Gray)
29) (Ginsberg, Driver): p[　] (Virolleaud, etc.)

30) (Virolleaud, etc.)

31) (Driver): k[rt. t̲‘ (?)] (Virolleaud): kr[t. ypr] (Ginsberg): k[rt] (Gordon, Gray, CTA)

32) (Driver): ndr[m mlk] (Ginsberg): ndr[ ] (Gordon, Gray, CTA)

33) (Virolleaud, Gordon, Gray): pli[y] (Ginsberg, Driver)

34) (Ginsberg, Driver, Gordon, Gray <IID: II11: p[ ] (Virolleaud, CTA)

35) (Virolleaud, etc. <IID: V 15)

36) (Virolleaud, etc. <IV 14)

37) (Virolleaud, etc. <IV 15-20)

38) (CTA): t(?)‘ ṣu(?) (Virolleaud, Driver): -‘ṣ-. š[ ]m (Gordon, Gray)

39) (CTA): [ ]rt[. .]tštn (?) qm (Virolleaud, Driver): [ ]rt[ ] tḏttqm (?) (Gordon, Gray)

40) (CTA): idb[ ]t (Ginsberg, etc.)

41) (CTA): lḫnšq[...]md[.](Virolleaud, Driver, Gray)

42) (Virolleaud, CTA): [batpt] (Driver <IIIK: V 6): [h atw](Gray): [.at̲r] (Aistleitner)

43) (Virolleaud): wlḫm mr (Driver, Gordon, Aistleitner, Gray)

44) (Virolleaud, etc. <VI 3-4)

45) (Gordon, etc. <VI 5): dbḫ. dbḫ (?). l (Virolleaud)

46) (Virolleaud, CTA <IV 15): []n.t[ ](Gordon): [ ]n. t̲[y](Gray)

47) (Virolleaud, CTA IV 16): [ ]bt. [ ](Gordon, Gray): y[n. lt̲r] (Driver)

48) (Virolleaud, CTA): [ ]rpi (?) [ ] (Gordon, Gray): [ḫbr.rbt.k]rpn [. yn] (Driver)

49) (CTA): [lt̲r. ḫ]br[. t̲rrt] (Driver)

50) (CTA): [ ]p[ ] (Virolleaud, etc.)

51) (CTA): [l]mt̲b[. b]at[pt wlḫmrr](Driver <IV 22, 23)

52) (Virolleaud, etc. <IV 23-27)

53) (Virolleaud, etc.)

54) (Ginsberg, Gordon, Driver, Gray)

55) [‘l (?)] (Virolleaud): [bk] (Driver)

56) : [u (?)]ṣb (Virolleaud)

57) : wy[‘n]y (Virolleaud)

58) (CTA): wil d (Ginsberg, Driver)

59) (Virolleaud, CTA): šm'. [ ]mt-m. l[ ]ṭnm (Gordon, Gray)

60) (Virolleaud, etc.)

61) : db[ḫ. dbḥ (?). lkrt.]adnkm (Virolleaud)

62) (Virolleaud, etc.)

63) (Virolleaud, etc. <I 15)

64) (Virolleaud, etc.): 原 y'rṣ

65) (Virolleaud, etc.): 原 ašmḫ

66) (Ginsberg, Gray): ḥmḥh (原, Virolleaud, Driver, Gordon, CTA)

67) (Gordon, Gray): [.] ṯ' (Driver)

68) (Ginsberg, Driver, Gordon, Gray, CTA)

69) (Gray): [ ]r[ ]l[ ]. (Virolleaud, Gordon): [t]rgm. l[h. t]dm. (Driver)

70) (Virolleaud, Driver)

71) : 'šr[n] (Virolleaud, Driver)

72) (Virolleaud, Driver, Gray): tpk byd (Ginsberg): ap kbyd (Gordon)

73) (Virolleaud, Driver, Gray): grltk (?) (CTA): [ ]r b?tk (Gordon)

74) (CTA, etc.): [trẓẓ] (Virolleaud): [. trẓẓk] (Driver<I 49)

75) (Ginsberg, Driver, Gordon, etc.): [wḫrṣ] (Virolleaud, CTA)

76) (Virolleaud, etc.)

77) (Ginsberg, CTA): [w(?)g(?)]rgrh (Virolleaud): [ ]rgrh (Gordon)

78) (Virolleaud, etc.): [ ]yqrb(Gordon)

79) (Gordon): tk (Ginsberg): [bt]k (Driver)

80) (Virolleaud, etc. <VAB: D30 IIAB: II17-18 ID: 95)

81) (Virolleaud, Ginsberg, Driver): [ ] (CTA)

82) (Driver): [m]rṣ (Virolleaud, Gordon, CTA)

83) (Virolleaud, CTA, Gordon, Gray): [hm dw] (Ginsberg): [u dw.] (Driver)

84) (Virolleaud, CTA): [wy'n] (Ginsberg, Driver): [ ] (Gordon)

85) (Ginsberg, Gordon): [d'. k. l] (Driver, Aistleitner): [ ] (Virolleaud)

86) (Virolleaud, CTA, Gordon, Gray): [dw k]rt (Ginsberg): [k. l dw. k]rt (Driver)

87) (Ginsberg): [krtn. d]bḥ (Virolleaud, Driver)

88) (Virolleaud, Ginsberg): [ʿ]šr (Gordon, CTA, etc.)
89) (CTA): [h. tšal] (Ginsberg, Driver)
90) : [aḫ] (Ginsberg, Driver)
91) (Ginsberg, etc.)
92) (Virolleaud, etc.)
93) (Driver)
94) (Virolleaud, Ginsberg, Driver, CTA)
95) (Virolleaud, Driver, Gordon): tnq (CTA)
96) (Gordon, Gray, CTA): šbʿym[m](Virolleaud): šbʿ[.]ym[m. wyʿny] (Driver)
97) (Ginsberg, CTA): [šʿt]qt (Virolleaud, Driver)
98) ll. 97-101<II 12-16
99) ll. 106-111<II 6-11
100) (Ginsberg, CTA)
101) (CTA): ʿn ʿk(?)r (Virolleaud, Driver) : ʿn[ ]r. (Gordon)
102) (Virolleaud, Driver, Gordon, Gray): sb lqṣm (CTA)
103) (Virolleaud, etc.): mhyṯ (CTA)
104) (CTA): bʿn (Ginsberg, Gordon, Gray, Driver): bṯn (Virolleaud)
105) (Gray): ʿl tlk(?) ʿṭrṭrm (Virolleaud): ʿl tl kʿṭr ṭrm (Driver): ʿl tl [-]k ʿṭrṭrm (CTA)
106) (Ginsberg, Gordon, Driver, Aistleitner): [b]ʿdnhm (Virolleaud, CTA)
107) (CTA) : bq[lthm] (Ginsberg, Driver, CTA) : bq[ṭr(?)hm] (Virolleaud): bq[rbthm] (Gray)
108) : t[bun] (Virolleaud, Driver)
109) (Ginsberg, CTA): kyʿn (Virolleaud, Driver)
110) (CTA): lnḫn ptm špy (?) (Virolleaud): lnḫ npt mšpy (Gray): lnḫnpt. mšpḫ (Ginsberg, Gordon)
111) (Gray, etc.): ṯlṯ kmm ṯrry (Virolleaud, CTA)
112) (CTA) : .lġrg(?)mṯ(?)lḥ[n(?)] (Virolleaud) : .lġrgm ʿlḥ (Driver) etc.
113) [.bymnk] (Virolleaud, Driver)
114) [bydk. (Driver)
115) (CTA): y[rbʿ il] (Ginsberg, Gray): y[ṯlṯ. yrbʿ (?)] (Virolleaud, Driver): y[rbʿ(?)] (Gordon)

116) (CTA): '[nyh] (Virolleaud, Ginsberg, etc.)
117) (Virolleaud, etc.): bpid (原)
118) (CTA): ydm?[.mr]ṣ (Virolleaud): yd mrṣ (Ginsberg, Gordon, Driver) etc.
119) (CTA): gršm (原, Virolleaud, Driver, Gordon, Gray)
120) : [ydh] (Ginsberg, Driver, Aistleitner)
121) (CTA): mt(Virolleaud, Driver): mi (Ginsberg, Gordon): tgh (Gray)
122) (Ginsberg, Gorgon, Gray): pṭr ptm (Virolleaud, Driver): (p/t/') ṭr. (?) (pt/k)m (CTA)
123) (Driver, Gray): <y>lḥm (Virolleaud, CTA): wlḥm (原, Gordon)
124) (CTA): l k[rt t̲'] (Virolleaud, Ginsberg, Gordon, Driver)
125) : qdqdr (原)

5. 語　　注

III K (CTA 15)

1. 大きく欠けている最初の箇所は, Ginsberg に拠れば, IK を承けてクリトの使者に対するウドムの王なるムシト・ハラヤの父パビルの言葉で,「帰つてクリトに告げよ, ムシトを君にめとらせよう, しかし彼女を手放すのは如何にも惜しい」と, ムシトの徳をたたえ, 人民の彼女を慕うさまを述べて l. 7 に至る.

2. *muẓammi'a* は √ẓm' (: hb. *ṣm'*, ar. *ẓami'a*, ak. *ṣama'u*～*ṣamū*) の D ptc s acc. ○ *yada* は副詞的対格 (Ginsberg等).

3. *taṯaṯkirnī* (<**ta-šaṯkir-nī*) は √t̲kr (: hb. ak. *škr*) の Š impf s3f+suf. p1 (Virolleaud, Aistleitner); Ginsberg, Gray は次行とのつながりを考えて≪彼らは彼女について行く≫とする.

4. =IK 124-125. ただし文脈が異る.

6. *ḫpṯ* については cf. IK 90; Ginsberg は l. 5 との対照から≪the flock≫とする ○ *umht* は *um* の p; cf. ar. *'umm-*, *'ummahāt-*; BL § 78 e.

7. *ktnḥn* は *kī* (: hb. *kī*)+√nwḥ (: hb. *nwḥ*, ar. *nwḥ* ≪大声で嘆く≫), impf p3m; Aistleitner は suf s3f を, また Dahood は √nḥn (cf. エレミヤ 22: 23) を考えるが不可.

II

4. *yrḫ* は ≪月≫ (: hb. *yraḥ*, arm. *yarḥā*, ak. *arḫu*), 母音は abdi-yariḫ, yariḫimānu という人名 (PTU p. 145) に拠る ○ *zbl* は cf. IK 17 注; 母音は PTU p. 183 による.

6. *rḥmy* は SS 13, 28 で *aṯrt* と並んで現れるから, アシラのエピテットか; cf. hb. *raḥam* (士師 5: 30); マリ文書に Ra-aḫ-ma-ya 等の名がある (APN p. 261) ○ *ršp* (: hb. *rešep* ≪焔≫) を IK 19 の拙訳では「疫神」とした; 炎熱時に最も強く, 死と豊饒の相を備えた冥界と疫病の神とされる (PTU p. 181).

7. *ṯlṯh* は ≪3≫ を語根だとする点は同じであるが, 訳は ≪sa trinité≫ (Virolleaud), ≪the third thereof≫ (Driver), ≪three pairs of them≫ (Gaster, *JQR*, XXXVII, 1947, p.287), ≪threefold≫ (Gordon), ≪in ihrer Dreizahl≫ (Jirku), ≪the three categories thereof≫ (Gray) と様々. Gray はここに, ウガリットにおける定着と文化発展の3段階に応じた宗教と神話の3つの異なる層——エールとその一族, 月神が代表する星の神々, クサル・ハシスというエジプトの工芸の神々——を見ようとする.

8. *apnk* は新しい挿話の始まりを示す (Virolleaud) 副詞で, *'ap* ≪前に≫+*hinnīkā*; cf. *aphm*, *aphn*, *apn* (WU 346).

9-10. 意味不明. Aistleitner によれば ≪彼の [家に] 入るのを彼は許したが, 出るのを許さなかった≫ となるが, それならば *wyṣa* でなければならない (テクスト注参照).

11. [*aḫ*]*r* は IIAB: III23 *aḫr mġy alyn b'l*, IV-V 106 *aḫr mġy kṯr wḫss*, IIIAB: B30 *aḫr tmġyn mlak ym*, IID: V25 *aḫr ymġy kṯr* [26]*wḫss* による推読. ただしこれらの個所では, *aḫr* は何れも後に主文をもつ従属

接続詞. Aistleitner はこれを従属接続詞としながら，前文にかかるように訳している．その他の訳では ≪そのあとで≫ という adv とする．

13. *la*-(: ar. *la*) は呼びかけの間投詞. *lṭpn* は多くの場合このように *il dpid* を伴なうから，Il のエピテットとすべきであろう：≪Kindly One≫ (Ginsberg), ≪Gütiger≫ (Aistleitner), ≪Freundlicher≫ (Jirku), ≪the Kindly≫ (Gray); cf. ar. *laṭīf* ≪親切な≫. これに対し，Driver (≪Lutpan, kindly god≫), Gordon (≪Lṭpn, God of Mercy≫) らはこれを一つの神名と考える．laṭipān という母音は de Moor (UF p. 172) の訳文によったものである．14. *dpid* は *d* (関係詞)+*pid* (: ar. *fi'du*, *fu'ād* ≪心≫), lit. ≪心を持った≫ (Ginsberg, Driver 等).

14. 15. *l*- を Driver, Aistleitner は "Optativpartikel" (: ak. *lū*) とするに対し，Ginsberg, Gordon らは否定辞 (: ak. *lā*) とするが，この場合いずれともとれる．一般に，疑問文における否定辞は修辞的否定の意味を帯びつつ希求的・命令的意味の副詞に変り得るものであるから ○ *brk* || *mr* は IID: I 25, 36 にも見られるので ar. *marīr* ≪強い≫ を援用して $\sqrt{\text{mrr}}$ ≪強める≫ とする (Driver, Gordon 等) ○ *n'mn* の神名との結合および母音は cf. PTU p. 163, APN p. 237f.

17. *byd* || *bm ymn* は IIIAB: B 39, IVAB: II 6-7, IIK: I-II 41-2, 47-8 にも見られる．

18. 同一動詞の inf. abs. と定形とが結合するとき動詞の意味が強められることはヘブライ語におけると同様である (Gordon, UT 9.27) が，ここの *brkm ybrk* のように inf. abs. に *-m* が接尾するときは更に強意が加わるのであろうか．アッカド語では初期に *-ma* を伴ない，後期に伴なわぬ例が多い (Soden, GAG 150a) ことを考えると，本来必ず接尾した *-m* が後に脱落したとも推測される．

21. *aṯt* から 25 の *lk* までが一文をなす．ここの始めの 3 句は A-B- 呼びかけ || A-B-C || A′-B′-C′ という構造をもつ．これは第 1 句で呼びかけを入れたため，A-B を第 2 句で繰返した上で補語 C を入れて一句を完結

させたもので，旧約聖書にも見られる構造である．e. g. 雅歌 4：8 (*'ty mlbnwn klh / 'ty mlbnwn tbw'y* ≪私と一緒にレバノンから，花嫁よ，私と一緒にレバノンから，お出で≫) (S. E. Loewenstamm: The Expanded Colon in Ugaritic and Biblical Verse. *JSS* 1969, p. 176-196). なお *aṯt*, *ġlmt* を acc として *ḥzrk* で文が結ばれる (Driver, Aistleitner) とするも可．ただ Aistleitner のように *tqḥ*, *tš'rb* を "Narrativ" と考えると，クリトは既に結婚していることになる．

24. *ṯmnt* は ≪第8の (もの)≫ f. 次は Virolleaud の書写した楔形文字では *ṯtmnm* となっているが，これを *ṯtmnt*. と読むことも容易にできる．*ṯtmnt* は IIK：I 29, 39 に出るクリトの娘の名．語根は *ṯmn* ≪8≫ であるから Gordon は Octavia と訳した (UT 19. 2698)；≪8回生む≫ 等の動詞とする (Ginsberg, Aistleitner, Driver, Gray 等) のは，*bnm* とのパラレルを考えると無理であろう．

25. *yṣb* は √nṣb ≪設ける≫ で，マリ文書には Ya-an-ṣí-ib-, Ya-ṣí-ib-, Ya-aṣ-ṣí-ib に始まる人名が見られる (APN p. 241). 上の Ṯtmnt と共に IIK で重要な役割を演ずることになる．

26. 女神アシラとアナトを乳母とする，ということによってクリトの嗣子の常人と異なる生い立ちを示す (Gray).

III.

3. *rpi* の解釈は様々：Virolleaud らは創世記 15：20 等の *rpā'īm* (伝説的なパレスチナ先住民) と等視し，Aistleitner らは ak. *rubū* ≪Fürst≫ からの借用，Gordon はおそらくイザヤ 14：9，ヨブ 26：5 等の *rpā'īm* ≪死者の霊≫ から ≪deities≫ (UT 19. 2346, UL, UMC) とし，Gray らは創世記 20：17，列王下 2：21 における *rp'* から類推して *rpi arṣ* を≪土地を豊饒にするもの≫ とする．我々は次行の *qbṣ* との対照上，ar. *rf'* ≪結合する≫ を引用して ≪community≫ (Ginsberg), ≪congregation≫ (Driver) としたのに拠る．

4. *pḫr*：ak. *puḫru* ≪集まり≫ ○ *qbṣ*：hb. *qibbūṣ* ≪集合≫ ○ *dtn*

は hb. *dātān* (民数 16: 1 等) と関連した種族の名であろう (Virolleaud, Gordon UT 19.712, Gray). Ginsberg, Driver らは ≪the realm≫, Aistleitner は ≪Herrscher≫ とする.

5. lit.「子供を生むことに彼女は近づく」(Driver, Gray); すなわち *wld* は inf. abs. (Gordon, UT 9.48); *tqrb* を Aistleitner は N ≪begattet werden≫, Ginsberg は *qrb* ≪内側≫ から派生した動詞 ≪conceive≫ とし, *wld* を *wa+ld* (√wld の inf?) とする.

7. *pġt* を≪幼女≫とする点, 諸家は大体一致している. cf. hb. *pū'ā* (出エジプト 1: 15); ID では Aqht の妹の名として現れる.

16. この末娘とは II 24 に既出の Ṯtmntであろう.

22. Ginsberg, Gordon らと同じ; Driver, Aistleitner は ≪第7年目に≫ とする.

23. lit.「クリトの息子らは彼女が約束した (√ndr) 彼ら (*hm*) のように」

25. √ḫss: ar. *ḥassa* ≪感知する≫, et. *ḫašaša* ≪見付ける≫, ak. *ḫasāsu* ≪考える≫ (WU)

26.「女神」はアシラのこと; アシラ‖女神は cf. IK 198, 202 VAB: E 45 等.

28. *m'* は *šm' m'* ≪いざ聞け≫ (IAB: VI23 IIIAB: C15 IK229 等) のように常に命令形の後に立ってこれを強める機能を持つから, ここでも *ph* を imp とする. ≪見よ≫ という諸家の一致した訳には異存ないが ar. *bāha* ≪et. beobachten≫ (Aistleitner) との対応は問題であろう. ○ *pr* は √prr (: hb.*prr*, ak. *parāru* ≪破る≫), pf s3m (Driver)

IV.

1. Ginsberg によるこの推読は IAB: III 15 IIAB: IV 29 IID: II 11 に基づくもので, これは王についてのみ用いられる定型的表現である.

2. cf. IK 229.

4. *šmn mrik* は lit. ≪お前の牛の脂≫ cf. e.g. *ḥakmōt śarōtēhā* ≪lit. 彼女の侍女達の賢者達→一番賢い侍女達≫ (士師 5: 29)

6-8. 「牡牛」,「かもしか」は比喩で, クリトを取囲む 10 のグループから成る首長を指す (Virolleaud); Gray によれば牡牛はバアルの動物であり, かもしかの角はエジプト新王朝の彫刻の中で Ršp 神の象徴とされているから, それぞれバアルと Ršp の神官達を指すのであろうという. こういつた意味を汲んで *ṯry* は ≪peers≫ (Ginsberg), ≪dukes≫ (Driver), ≪Magnaten≫ (Aistleitner); *ẓbyy* は ≪barons≫ (Ginsberg, Driver), ≪(Truppen)führer (?)≫ (Aistleitner) のように訳される. 「ハビルの牡牛」は「モアブの牡牛→モアブの首長」(出エジプト 15: 15, cf. エゼキエル 31: 11) 等と同じ表現 (Virolleaud).

23. cf. テクスト注. *ḫm mr* (*mr* は ≪主人≫: syr. *mārē*) と読めば, ≪幕屋≫ に *ḫm*～*ḫmt* (IK 65, 159) の交替を認めることになるし, 文脈からも, *ḫmt gr* (: hb. *gēr* ≪客≫) の方がよい.

24. *tšlḥ* を Jirku は p3m とする.

25. *tštn* を Ginsberg, Driver, Gordon, Gray らは s3f とする. *tqtl* という型は p3m でも s3f でもあり得るが, *tqtln* という型が s3f であることは energ. 形以外には考えられない; さらに文脈からも l. 24 の妻の行為と此処の客人の動作とが対照させられている, とするのが自然である.

28. *lkrt* の *l* を ≪のために, 対して≫ ではなく ≪に (所有)≫ とする (Ginsberg, Driver, etc.)

V

13. lit.「牡牛達の言葉のように」

15-17 原文欠損多く文脈不明. l. 17 の *šrk il* を ≪ton prince (c'est) El ?≫ と Virolleaud は訳すが, ここの *šr* が ≪君侯≫ だとすると, il がそう呼ばれるのは此処だけである.

18, 19. *'rb špš* || *ṣbia* (: ar. *ḍb'* ≪隠す≫) *špš* (Ginsberg, etc.); *ṣbia*

が対格語尾をもつから *'rb* をも副詞的機能の対格と考える (Ginsberg, Driver). Gordon, Gray は *ymġ* の目的とし, ≪reach the sun-set≫, すなわち日の沈まぬうちに着く, と解する.

20. *b'lny* は当然クリトを指す. *-ny* は Gordon によると1人称双数の接尾人称代名詞である (UT 6.9; Gordon は *-ny* を古代エジプト語の *nj* と対応させ, セム—エジプト共通祖語においてはすべての人称が双数を持っていたとする, cf. CGS 13.28). しかしここは客観的にはハラヤと多くの客人達が居るわけで, Driver も ≪of us both≫ と訳しながらその注に Sc. Huray and the lords of Udm という. Aistleitner はこの場合の *-ny* は pl であるという (GU p. 27). 形式の意味と客観的事態とは別であるから双数としてもよい訳であるが, 我々は総じてセム語中ウガリットにのみ文法的範疇としての1人称双数があったことを疑い, *-ny* は pl の *-n* (おそらく *-nī*) の allograph だと考える. l. 21, 22 では *'ln* ≪我々の上に≫ となっている.

24. *yšṣi* は √yṣ' の Š impf s3m; すなわち *yašaiṣi'* <**yašayṣi'u*.

IIK (CTA 16)

I.

1. この碑板の物語の主人公を示す表題. IAB: I 1 (*lb'l*), ID: I 1 (*laqht*) に倣って [*l*] を補なう.

2-5. l. 15 以下, l. 100 以下に再出する問題の個所; 瀕死の父親を前にしたその子 (おそらく 1.46 の Ilḫu) の言葉であることは察せられるが, 殆んど全部の単語の意味につき見解が定まらない. 我々は普通のセム語の知識によればこうなるべきだという解釈を示す.

2. *klb* (: hb. *keleb*, arm. *kalbā*, ar. *kalb*, ak. *kalbu*) は ≪犬≫, 従ってこれと対をなす *inr* も犬の一種である (Virolleaud 以来). 拙訳は Ginsberg に従ったが ar. *nawaru* ≪vagabond≫ との対応は必須ではない. その他 ≪番犬≫ (Virolleaud, Aistleitner 等), ≪猟犬≫ (Driver 等). *klb* を pass. ptc. *kālūb* ≪囚われ人≫ とし, *inr* を ar. *nwr* ≪II. 入

墨する≫ と対応する語根から派生した名詞の不規則複数形で，古代では祭司が入墨する習慣があったとして，≪temple servitors≫ と訳する Gray の説は牽強附会に過ぎる．de Moor は Studies in the new alphabetic texts from Ras Shamra I (UF p. 167-188) の中で RS. 24. 258 (Ugaritica V, 1968, p. 545-551) の表面 l. 13 の *linr* が *lmgr lb* (: ak. *ina migir libbi* ≪of one's own accord≫) とパラレルであるとして，*inr* を ht. *innarā* ≪on one's own account≫ からの借用と考え，ここで *klb* || *inr* だから，*klb*=*k*+*lb* (: hb. *kilbāb* ≪willingly≫) と説明する (p. 171-2)．これは斬新だが，ヒッタイト語を持出したり，*k-* を *ik-* と同じく ≪how≫ とするなど，無理な点も見える ○ *bbtk*=*b-*(prep)+*bt* ≪家≫+*k*(suf) とし，*b-* を ≪から≫ (Aistleitner; Dahood, UF p.28) ではなく，≪において≫ (Gordon, Jirku) とする；mhb(!) *bābū'ā* と対応させて *bbt* ≪顔付≫ とし，*n'tq* を! pass s3m ≪変えられた≫ とする Ginsberg, Driver, Gray の説は採らない；de Moor は *bt* || *hšt* から，ak. *bītu* における比喩的意味を参照して *bt* を ≪墓≫ とする ○ *n'tq* は *'tq* (: hb. *'tq*, ak. *etēqu* ≪通過する≫) の impf p1. 我々は家の中を右往左往する様を考えるが，Aistleitner らの訳では家から出て行くことになる．

3. *ap hštk* || *btk* とし，*ap* を VAB: E33-5 で *ḥdrm* と対句をなす *ap sgrt* (拙訳≪小室≫) の *ap* と同一視する (Dahood, UF p. 28) ○ *ḫštk* を ≪あなたの歓び≫ としたのは，l. 4 で *ḫštk* が「嘆きに変る」故，≪嘆き≫ とは反対の意味を持つべきだと考えたため (Ginsberg, Driver, Dahood). Driver は ar. *hiššatu* ≪lustiness≫ と対応させる．ak. *ḫaštu* により ≪墓≫ (Jirku, de Moor) とするのは文脈的に困難 ○ *ik*: ak. *ikkē* ≪wie!?≫ ○ *mtm* は √mwt の inf. abs+*ma*; inf. abs+*ma*+impf については cf. IIIK: II 18 注．Ginsberg らは *ik* ≪like≫, *mtm* ≪the mortals≫ とする．

4. *ntn* は l. 100 では *bky*，故に ≪歎き≫ (Ginsberg, Gray), ≪Kla-

geleute≫ (Aistleitner) など. Gordon (UMC) は ≪nor we be allowed≫ としているから, √ytn N pl を考えているようだ. 同じく √ytn N としがなら, *ytn ql* ≪声を挙げる≫ の *ql* を省略した inf で, ≪the being raised (of the voice in weeping)≫ から ≪moaning≫ という意味になったという de Moor の説は納得できない.

5. *'tq* は prep *l* と統合して ≪に向って通過する≫→≪に変る≫(Ginsberg 等) ○ *bd=b+yd* ≪によって≫ (Driver, Gordon, Gray); Ginsberg らは IID: VI 31 VAB: I 18 における *ybd* || *yšr* によって ≪挽歌≫ とし, l. 4 *ntn* と同格とする; Aistleitner は次の *aṯt* ≪哭き女≫ を主語とする≪歌う≫ (cf. ar. *nbḏ* ≪klopfen≫) を考える ○ *ṣrry* は ≪嘆き悲しむ≫ adj f (ak. *ṣāriru* ≪挽歌の歌手≫, ar. *ṣrr* ≪激しく泣く≫) (Ginsberg); その他, ak. *ṣarīru* により ≪私の黄金≫ (Aistleitner), ≪私の輝き≫ (Driver); ak. *ṣerrēti* により ≪高みにおいて≫ (Gordon, UT 19. 2199) 等, 諸説あり.

7. *ṣpn* を Ginsberg, Aistleitner, Gray らは *ġr b'l* ≪バアルの山≫ と同格の地名とするのに対し, Driver, Gordon らは *b'l ṣpn* を一つの神名として扱う. *b'l ṣpn* は祭儀的テクストにおいても他の神々の名と並んで出ている (CTA 34: 10 36: 14) し, *il ṣpn* (CTA 29: 1) という表現もあるので, 神名と見るべきであろう; 但し対句構造は破れる ○ *ḥl* は l. 9 で *rḥb mknpt* ≪翼を広く張った≫ と形容されるので鳥の一種 (cf. hb. *ḥōl* ≪不死鳥≫ ヨブ 29 : 18) と解する. l. 7, 8 の *-m* は神名などに接尾する限定辞 (Aistleitner, GU p. 35) と見る; すなわちこの *ḥl* は鳥神であろう. Virolleaud は *ḥr* ≪たか≫ の別形, Aistleitner は ≪Sturmvogel≫ とする. hb. *ḥēl* ≪外壁≫, ar. *ḥawl* ≪の周りに≫ により ≪circuit, district≫ とする Ginsberg, Driver, Gray の解釈も可能; この場合「聖なる領域」すなわち「バアル・サパンの山」である. ≪der Kranke≫ (Jirku),≪dirge≫ (Gordon, UMC) は根拠不明.

8. *any* を *'ny* (: hb. 'nh) の ptc s とする (Ginsberg, Driver, Gray

等); Virolleaud は ≪私の力(: hb. *'ōn*)≫, Aistleitner は「聖なる鳥」の名とする.

13. *yšnn* を *šn* ≪歯≫ (hb. *šēn*, ar. *sinn*, ak. *šennu*) から派生した動詞 ≪歯ぎしりする≫ (Virolleaud, Driver, Aistleitner, Gray 等) と一応解するが, hb 等における派生動詞の意味は ≪鋭くする≫ である ○ *ytn gh/bky*は*wytn 't-qwlw bbky* (創世記 45: 2) を参照; ただしここでは prep *b* を欠くので *bky* は副詞としての ptc acc とすべきであろう (Gray).

15. *blmtk* を *b* (prep; *ngln* と統合)+*l* (否定辞) +*mt*≪死≫+*k* (suf s2m) と分析する (Virolleaud, Gray); Virolleaud によればこの *l*+名詞のような合成はアッカド語に多いというが, ak. *lāmātu*<*lā awātu* ≪Unwort≫ の如きはむしろ例外 (Soden, GAG 59b) であるから, Gray のように, ヘブライ語の *blō'-ṣedeq* ≪不義に≫, *blō' mišpāṭ* ≪不正に≫ (エレミヤ 22: 13); *blō'-leḥem* ≪パンでもないものに≫, *blō' lśāb'ā* ≪飢を満たすに足りぬものに≫ (イザヤ 55: 2); *llō'-kōḥ* ≪力でないものに≫, *lō'-'ōz* ≪強くない≫ (ヨブ 26: 2); *llō' ḥokmā*≪知慧のないものに≫ (ヨブ 26: 3) 等を参照すべきである.

26. *tkl* は $\sqrt{\text{kly}}$ (: hb. *klh*, ak. *kalū*) D juss s2m; cf. *killā 'et-'ēnē* ≪目を消耗させる→目を疲れさせる≫ (サムエル上 2: 33, ヨブ 31: 16); 此処では あまり泣いて涙を涸らすな ということ.

28. *udm't* は *dm'* の不規則複数形 ; cf. ar. *dam'*, p *dumū'*～*'admu'*; 同じ型に属する p に *ušpġt*, sg. **špġt* (: hb. *šip'ā*) がある (Aistleitner, GU p. 43)

29. *ṯtmnt* はクリトの末娘, IIIK: II 24 に既出; この名はかつてフェニキア, 特にシドンにおいて崇拝された健康の神 Ešmun (cf. KAI Nr. 14 注) を Virolleaud に想起させている ○ *ḥmḥh* を Ginsberg, Gray らに従い *ḥmḥmh* (*ḥmḥm*+*h*) と訂正する; *ḥmḥm* は $\sqrt{\text{ḥmm}}$ (: hb. *ḥōm*, ar. *ḥumm*, ak. *umm* ≪熱≫) の reduplication による名詞 ≪情熱≫ で, SS 51, 56 で *ḥmḥmt* という形で現れる. Aistleitner は *hšḥh* (: ak.

ḫašāḫu ≪verlangen≫) と修正する (WU 938). *-h* は *bt* ≪娘≫ を指す suf で, *ḥmḥmh dnn* が *bt* に関係句としてかかる. Gordon (UMC) はここを ≪From the house (*bt*) of her guardian (*ḥmḥh*), Danan≫ と訳すが, 根拠は不明.

31-37. 原文に破損多く, Ginsberg は訳出を放棄している ○ l. 31 と l. 34 の *al* を Driver, Gray は断言的とするに対し, 我々は Aistleitner, Jirku, Gordon と共に否定的と解する.

34. *mmh* は Driver, Gordon, Jirku, Gray I によって ≪彼女の水 (=涙)≫ とされる. しかし ≪水≫ は *my*, *mym* という形がをとるから, *mmh* || *ṣat npšh* ≪かの女の魂のほとばしり≫ も考慮して, Gray II と共に Aistleitner に従って ak. *mummu* ≪叫び声≫ と対応させる.「水」とした場合 *tšt* は当然 ≪流す≫ となる.

35. *smkt* を ar. *samk* ≪屋根≫と対応させる; 同じ対応によって≪Himmelszelt≫ (Aistleitner), ≪the vault of the sky≫ (Gray II), ≪high land≫ (Driver) 等の訳が与えられ, 我々は *šdm* との対語であることも考えて Driver に従った. ≪meadow≫ (Gordon, UMC), ≪Landschaft≫ (Jirku) も同様の理由によるものか.

36. *ṣba* (cf. IIIK: V19) はその前の動詞の目的語 (Driver, Gray) または副詞的対格 (Jirku, Gordon) ○ *rbt*: ar. *rabbātu* ≪女主人≫ (Driver 等)

37. 文脈上 *tgh* は√ngh ≪輝やく≫ (: hb. *ngh*, ak. *nagū*) であるが, Virolleaud, Aistleitner が *rbt* を主語とする動詞と見るのに対し, 我々は Driver, Gray と共に名詞と考える; *t-* 名詞については cf. UT 8. 48 GU p. 18 Friedrich §203.

38. この *rbt* を l. 36 の *rbt* と同一視すれば文脈に矛盾が起る. そこで Gordon は太陽の残照を考えて ≪gleaming with glow≫ (UMC) とした. 我々は Driver, Aistleitner と共に *rbt* を ≪一万≫ (: hb. *rbābā*; cf. VAB: D82 等) とする;「一万の光」とは星のこと.

41-42. Driver, Gray と共にこの Virolleaud の読み方を採り, *apk*

≪汝の鼻≫ ||*brltk* として，*brlt* を ≪咽喉≫ と解する．Gray によれば，ある人の前でこのような態度をとるということは，鼻やのどで呼吸できるのはその人のお蔭だということを示す全面的信頼を意味する；もう一つの解釈としては，自分の顔に手を当てて隠すことによっておのれを無にしていることを示すのだ，という．Ginsberg の読み方では，*tpk* ≪汝の太鼓≫ (: hb. *tōf*, arm. *tuppā*, ar. *duff*), l. 42 [ ]*rbtk* ≪汝のシンバル≫ となる．

43. *lk škn* という imp+imp 構文は例えば cf. hb. *lek-rēd* ≪さあ，下りよ≫ (出エジプト19: 24) ○ *ṣrrt* は Driver, Gray II によれば ≪concubines≫ (: ak. *ṣirritu*, hb. *ṣārāh*; ar. *ḍarratu* ≪rival wife≫) とされる；しかしこの語は此処以外では常に *ṣrrt ṣpn* として現われ，その場合 ≪サパンの高み (山)≫ と訳される．*ṣpn* は既に l. 7 注で述べたように *b'l ṣpn* という神名として現われる．*adn* と *b'l* とは意味範囲に共通の部分が多く，実際 IIIK: IV 28 と VI 5 とでは free variants のように用いられている．そうすると l. 44 の *adnk* は *ṣpn* を指す，ということも考えられよう．

46. ここで初めて現れる *'ilḥa'u* は文脈によって，クリトの息子の一人と察せられる．この vocalization は Ginsberg ('Elhau') による．'Elhu', (Driver) 'Ilchu' (Jirku) 等は "glottal stop" を無視した転写である．

47. *mrḥ* ≪槍≫ はエジプト語からの借用語で，metathesis によって hb. *rōmaḥ*, syr. *rumḥā*, ar. *rumḥ* となった (Gordon, UT 19. 1547). Driver は ≪wind-pipe≫ (: ar. *marwaḥ*) とする．

48. *grgr* を Driver は Virolleaud に従い，≪咽喉≫ (: hb. *gargrōt*) とする；我々は *mrḥ* ≪槍≫ との対語として同種の武器を考える (Ginsberg, Gordon, Aistleitner, Jirku); Gray は ar. *ǧrr* ≪引張る≫ を引用しつつ ≪javelin≫ を提唱するが，この対応は疑問である．

49. *trẓẓh* は hb. *rūṣ* ≪走る≫ と対応させられ，*h* は suf s3f，語幹

は *rẓẓ* の tD (Aistleitner, WU 2538)とか, **rwẓ* の L (Gordon, UT 19. 2309) と説明される. こうして≪彼女に向って走って近づく≫とすれば, 文脈上は一応適当だが, 文法的にうまく説明できない. Driver は *yqrb* を *qrb* の D≪もたらす≫, *trẓẓ* を≪願望≫(: arm. *rgīgtā*≪願望≫)とするが, これにも説得力がない.

50-51. *ġlm*: ar. *ẓalima*≪暗くなる≫; *šib* は *š'b* (: hb. *š'b* ak. *sa'ābu*≪水を汲む≫) の inf acc (Ginsberg, Gray 等); ここも諸説あり, 先ず *ġlm* を Aistleitner, Gordon は Ilḥu を指す≪少年≫, Virolleaud, Driver は *aḫth* を属格として従える≪奴隷 (nom)≫として, ともに *šib* で文を切る. *šib* については, *aḫth* を主語, *ġlm* を目的語とする動詞≪erspähen≫ (: hb. *šwf*) (Aistleitner), *ġlm* を主語とする動詞≪attracts the attention of≫ (Gordon, UMC) 等が提唱されているが何れも無理であろう ○ この結果 *yṣat mrḥh* は≪she did come forth with her fan (?)≫ (Driver), ≪Seine Lanze wurde sichtbar≫(Aistleitner), ≪And she goes out and [espies] his lance≫ (Gordon) などと訳されている.

52. *tl*: hb. *tēl*, ar. *tall*, ak. *tillu* ≪丘≫ (Virolleaud, Driver); 他に≪threshold≫ (Ginsberg), ≪Türflügel≫ (Aistleitner); Gray は ar. *mtall* により≪upright≫とする ○ *yṣb* を Driverは自動詞≪he did stand≫とする ○ *pnh ṯġr yṣu* は lit≪彼の顔 (=視線) が入口に出る≫; ≪顔を向ける≫は *ytn pnm 'l* (VAB: D 81 等) と表現されるのが普通であり, 我々のこの解釈はいささか無理だとはいえる; 結果的に同じ意味にとる Driver は *ysu* を他動詞, 従って *pnh* を目的語としている. その他 Gray は *pnh* を≪彼女自ら≫とし, *ṯġr* を Gordon と共に≪out of the door≫とする. しかし妹が家から出たとすると l. 51 と矛盾する. そのほか Ginsberg の訳では≪槍の輝きが戸口を照らす≫となる.

53. cf. VAB: D 29 *hlm 'nt tph ilm*≪アナトが神々を見るや否や≫; cf. 同箇所拙注.

54. Ginsberg, Aistleitner, Jirku らと同じ. Driver, Gordon, Gray によると ≪地に向って自分の腰を彼女が砕く≫, すなわち *kslh* は acc, *tṯbr* は G (*tiṯbaru*) ということになる.

59. 補読した否定の *l* を Aistleitner は '強勢辞' ≪たしかに≫ (: ak. *lū*) とする.

II.

63-78. 行頭の 2-4 字が読みとれるに過ぎないこの部分では, Ilḥu と Ṯtmnt との問答の続きが記されていたに違いない. l. 76 に「彼女が飲ませる」という語も見えるので, おそらく父王の病気について不安にかられた妹が, 言葉を濁す兄を酔わせて満足な返事を引出そうとしたのであろう.

80. Aistleitner (MK), Driver に拠る: *b'r*: hb. *b'r* ≪燃える≫; Ginsberg, Gordon は hb. *b'r* ≪愚かである≫ の D ≪馬鹿にする→欺く≫ とする.

81. *mn* を Gray は Virolleaud に従つて *mnh* (: hb. *mnh*) ≪数える≫ の imp とする; 他の諸家は我々のように疑問詞 (: ak. *minū*) とする ○ *k* は 'temporal' の接続詞というよりも hb. *kī* のような強意辞であろう.

82. *mrṣ* || *dw*: hb. *dāwā* ≪menstruieren≫(HAL), ar. *dawiya* ≪悲惨である≫.

86. *mnd'* はおそらく *mn*+*yd'* ≪何を知っているか→多分≫; cf. ak. *minde* <*mīn īde* ≪何を私は知っているか→多分≫ (AHW p.655); hb. *maddūa'* <*ma-yyādūa'*. しかしこの対応を提供した Driver は ≪assuredly≫ とする; Aistleitner, Gray II もこれに従う ○ *mġ*[*y*]は Driver (≪is passing away (note: or 'has passed away')≫) に従う.

87. *tṣr* は √ṣr (: hb. *yṣr*) の juss s2f; Virolleaudはimp, Driver は ≪thou must fashion≫, Gray II は ≪thou mayst fashion≫ とする; ≪it will besiege≫ (Gordon, UMC) は√*ṣwr* (UT 19.2155) を考えているのであろう.

88. *tṣr* || *trm*, *qbr* || *tnm* と考え，*trm* は √rmm (: hb. **rmm* ≪建てる（エゼキエル9: 9)≫, ar. *ramma* ≪rebuilt≫) という Gaster (→Driver, Gray II) の，また *tnm* は arm. *tawwānā* ≪chamber≫ によって ≪a sepulchral chamber≫ と訳す Driver (→Gray II) の提案に従う.

89. Driver と共に *nkyt* ≪宝庫≫ とする；cf. hb. *nkōt* ≪宝≫, ak. *nakkamtu* ≪Schatzhaus≫；*nakāmu* ≪anfhäufen≫(AHW).

90. Virolleand に従い *škllt* を ak. *šuklultu* ≪囲い≫ と対応させる.

91-96. 破損多く，一貫した意味を取出すことができない； Ginsberg, Aistleitner も訳出を断念している.

III.

1. *yṣq* は *yṣq* (: hb. *yṣq*) ≪注ぐ≫ の impf pass s3m. (Aistleitner, WU)；Driver, Gordon, Jirku, Gray らは ≪He pours oil≫ と act に訳しているがその主体は何であるか不明. Ginsberg によると，「油を注ぐ」というのは雨乞いの魔術，または「油」=雨という比喩. de Moor は上掲論文の中で RS 24, 245 裏面 l. 4 の *yṣq šmn šlm* ≪Oil of a welfare-offering was poured≫ (de Moor) (=VAB: B31-32) と此処とを関連づけようとしているが，文脈が全く異なることを考慮しなければならない.

3. *sblt* は Virolleand 以来 ak. *zabālu* ≪tragen, herbeischaffen, bringen≫ (Bezold) (: hb. *sbl* ≪荷う≫) と対応させられ，≪(木が) 荷う物→果物≫ という名詞 (Driver, Aistleitner)，あるいは ≪実をつける≫ という動詞の opt pf (!) s3f (Gray) とされる.

4. *ksm* は l. 10 にも現れ，そこでは l. 9の *ḥṭṭ* ≪小麦≫ の対語であるとほぼ認められるから，≪麦≫ (: hb. *kussemet*≪スペルト小麦≫) とする (Virolleaud, Aistleitner 等). この *ksm* を Gray らは l. 3 の *ʿṣm* と対照させ，それに伴なって *arṣ* || *ʿn* だから Driver らと共に *ʿn* ≪furrow≫ (ar. *maʿna*) とした. しかし最初に *l* (Gray はこれを "願望" の小辞ととっているようだが名詞の前では疑わしい) がある点，また *ʿn* は ≪泉≫

と解する方が自然で，そうすると *'n* || *mṭr* となる点から，我々は 1. 4 || 1. 5 || 1. 6 とする．このような3項の対句は稀ではない ○ *miyt* は文脈から推して≪しめり≫ (Aistleitner, WU) とする；Gray は *m't* ≪百≫ から派生した動詞の opt pf ≪to bear a hundred-fold≫ を考える．

6, 8. *'ly* || *b'l* は此処だけであるが，既に Virolleaud は ak. *elū* ≪高い≫ が神 Ninurta の属性となっていることを参照して，*'ly* をバアルのエピテットとした；cf. hb. *'elyōn*; Dahood は詩篇 7：9, 11 等の *'l* (*y*) もかかる意味にとるべきだという (Gordon, UT 19. 1855)．

9. Herdner の提唱に従って *bgn* と読む；すなわち原碑板ではその方が *b'n* よりも蓋然性が高く，かつ I*AB: VI 21 IAB: I 5 で *gn* は *'mq* ≪谷≫ とパラレルであるので ≪畑≫ と解される (CTA, I, p.74 note)；*gn*: hb. *gan*, ar. *ǧannat*, ak. *gannatu* ≪園≫ とすべきであろう．

10. *nrt*: hb. *niyr* ≪新田≫ (ホセア10：12等) は Virolleaud 以来の諸学者の一致した見解．

11. Driver は *tl* を Virolleaud と共に hb. *tēl* ≪丘≫ と対応させつつ ≪ridge(s)≫ と訳し，*'ṭr*: ar. *'iṭr* ≪香り≫, *ṭrm*: ar. *ṭrw*～*ṭry* ≪新鮮である≫ とする．これに示唆を得た Gray II の解釈に我々は従い，*tlm*: hb. *telem* ≪畦≫, *'ṭrṭrm* を *'ṭr* (: ar. *'iṭr*) の reduplicated form とする．

12. Virolleaud 以来 *ḥrṯ*: hb. *ḥrš*, ar. *hrṯ* ≪耕やす≫ とされる；母音が示すように我々は文法的には ptc p とする．

13. *lẓr* は prep (cf. IK 166)；≪de dessus≫ (Virolleaud), ≪nach (temp)≫ (Aistleitner) 等と訳されるが我々は Driver に従って前行 *nšu* と統合させる ○ *'db* を Aistleitner は Virolleaud に従って ≪仕事≫ と，Ginsberg は ≪growers≫ とする；我々は Gray II と共に Driver にならう ○ *dgn* はこの場合普通名詞 (: hb. *dāgān* ≪穀物≫) であろう (Virolleaud 以来)；Gordon (UMC) は≪ダガン≫ (cf. IK 78 注) とする．

16. cf. テクスト注. *qb't*: hb. *qubba'at*, ak. *qabūtu* ≪杯≫；Gray

の補読は ar. *qirba* ≪革袋≫ による；*qlt* ≪cruses≫ (Driver) は根拠不明.

IV.

3. Driver, Aistleitner, Jirku がこの行全体を一つの文と見て *il* と *ṯr lṭpn* とを「同格」とするのに対し，我々は Ginsberg, Gordon, Gray と共に *ph*[*t*] *kil* || *ḥkmt kṯr lṭpn* と考える；*ṯr* (cf. IK 41 等), *lṭpn* (cf. IIIK : II13) は共に *il* の副名.

4. *ngr*; ak. *naggāru*, arm. *naggārā*, ar. *naǧǧār* ≪大工≫ (Virolleaud 以来). Ginsberg, Gordon, Jirku らは *ngr il* を ≪carpenter-god≫, l. 5 の *ngrt ilht* を ≪carpenter goddesses≫ のように訳すが，それよりも *il*, *ilht* を属格とし，*ngrt* を（従って *aṯt* も）s, f とする (Driver, Aistleitner) 方が自然である. l. 16 の意味を考慮し hb. *ngr* ≪注ぐ≫ に拠り *ngr il* を ≪the sacred water-pourer≫ としながら次行の *ngrt ilht* は ≪the water-pourers of the goddesses≫ とする Gray II の解釈は，語義的にも文法的にも容れ難い. 彼は *ilš* を ar. *lss* IV ≪sprout≫ と結びつけて ≪Sprouts≫ と訳すがこれも無理.

6. Aistleitner は ar. *kḥṣ* ≪抹殺する≫; *'r*: hb. *'ayir*, ar. *'ayr* ≪驢馬≫ により ≪彼は野驢馬のように逐電した≫ と訳す. 他の訳者達は訳出していない.

14. cf. IK 73, 75

15. *lnḫnpt* || *lṯkm*; *mšpy* || *bnwn* という対句構造は推定できるが，語義は不明. ≪to the summit of the bare roof≫ という Gray の解釈はその根拠に問題が残る.

16. *mṯrry* は√$\overline{\text{ṯrr}}$ (cf. IK 109 *ṯrr* ≪水豊かな≫: ar. *ṯarr* ≪水豊かな≫) の D ptc p+suf s1 で lit. ≪水を豊かにする者≫; Gray は ≪my water-providers≫ とする.

V.

8. *ṯannutīhū*, 9. *ṯalṯutīhū* という形は ak. *šanūtē-šu* ≪二度目に≫,

šalšūtiš-šu ≪三度目に≫ (Soden, GAG 71.b) と形態論的に全くパラレルである.

10-20. この間同じ単語が一定の間隔をおいて現れるので, ほぼ完全な l. 20-22 に基づいて破損箇所を補充する. *my bilm*…*'nyh* が4度繰返されている, と見ることには異論がないが, *'nyh* と *rgm* との間に入るべき語については異説がある (cf. テクスト注). l. 19-20 の *yṯdṯ yšb'* に該当する l. 17 の箇所に *yḫmš* とあるから, その前に *yrb'* を, また l. 13 に *yṯny. yṯlṯ* を補うことができる. Ginsberg らが l. 13 を *y[rb'. il]*, l. 16 を単に *'[nyh]* とだけ補うのは, l. 8-9 に「二度目, 三度目」があるからであろう. しかしここでは副詞ではなく l. 17 *yḫmš* のように動詞が用いられているし, l. 13 にだけ *il* を入れるのはパラレリズムを破ることにもなる. さらに原碑板にはこの Herdner の補充に足るだけのスペースがあることが, 例えば l. 19 と l. 16 の長さの比較から分る.

11. *ydy* の語根を Driver, Aistleitner は *ndy* とする. しかし V 27 に inf 又は ptc としか説明できない *ydt* があるし, 1例だけ Aistleitner (WU 1756) が挙げている *nd* (Driver は ≪sparrow≫ と訳す) はこの語根に属するかどうか疑わしい. それ故我々は Virolleaud に従って語根を *ydy* とする. *ydy*: hb. *ndh* ≪閉め出す≫, ak. *nadū* ≪投げる≫; この語頭の音韻対応については cf. *ytn*: hb. *ntn*, ak. *nadānu* ≪与える≫ (cf. IK 142注).

13. *gršm* は *grš* (hb, arm. *grš*) ≪追払う≫ の inf. abs+adv *ma* (Aistleitner, WU 704; Gordon, UT 11.4) ○ *yṯny*, *yṯlṯ* 等は数詞 *ṯn* ≪2≫, *ṯlṯ* ≪3≫ 等から派生した動詞; *yṯny* は G, *yṯlṯ* 以下は D の impf; cf. hb. *wayyišnū*, *wayšallēšū* (列王上 18: 34).

24. *ṯb* は √ṯwb (Virolleaud, Aistleitner, Gordon); Ginsberg, Driver, Jirku, Gray は ≪坐れ≫ (√yṯb, *ṯib*) とする.

25. *kḥṯ zbl* という表現は IIIAB: B 23-24, 25, 27-28, 29 にも見出される. Amarna 文書に *ka-aḫ-šu* という語があり, フリ語 *kišḫi* から

の借用だといわれる (Friedrich, *ZDMG*, 1942, p. 491).

26. *iḥtrš* は *ḥrš* (cf. hb. *harāšīm* ≪魔術者≫ イザヤ 3 : 3) の Gt impf s1. ○ *škn* は √kn ≪存在する≫ の Š inf abs ≪存在させる≫

27. *ydt* 以下, Herdner の原碑板に基づく新しい読方に従う (cf. CTA, II. p.76 note). *ydt* は √ydy の inf cst ≪(病を) 退けること≫, 又は ptc sf ≪(病を) 退治する女≫. *gršt* も同じく≪追い払うこと≫又は≪追い払う女≫. Gray は *ydy* の語根を √ndy とした (cf. l. 11 注) ため, ここで *yd mrṣ* (Gray はこう読む) を 'relative clause' として ≪(that) which will abolish the disease≫ と文法上無理な解釈に陥っている.

48-49. VI 6-7 により推読 ; 同箇所注参照.

VI.

1. *bm*, *km*, *lm* 等からの類推で *dm* を *d*+*m* と分析するとき (cf. IK 31 注), *d* (: hb. *z*, arm. *d*, ar. *ḏ*) は所謂西セム語派に共通の指示機能をもった形態素である. ここの *dm*…*dm* でもこの指示機能が現れていると見ることができ, その意味で Gordon (UT 19. 670) らの ≪on the one hand…on the other≫ という訳もうなずける. Gray はこれに従いつつも, 「同系のセム諸語中の如何なる用法との満足すべき親近性もこれまで提案されていない」というが, hb. *ze*…*ze*, (e.g. 詩75: 8) *zōt*…*zōt* (e.g. 創世記 29: 27) がこれと対応させられ得ると考える ○ *ḫt* は √ḫtt (: hb. *ḥtt* ≪砕ける≫) の imp sf (Ginsberg, Driver 等) ○ *š'tqt*は V: 25 以下でエールが示唆した病気治療の魔力を持つ女の名であろう. Gordon は √'tq ≪通過する≫ の Š 名詞として, ≪She-who-causes-(sickness)-to-pass-away≫ と訳する (UT 19.1938). Jirku は Schutaqat と読む.

2. *li* は √l'y (: ph. *l'y* ≪強くなる≫, ak. *le'ū* ≪能力を持つ≫) の imp sf (*li'ī*<**li'iyī*). Aistleitner (WU) は l. 1 の *ḫt* と共にこれも形容詞と考える.

3. Ginsberg, Driver らと共に *bt krt* を *bu tbu* と統合させる ;

Aistleitner は前行の *wttb' š'tqt* の補語としている．ここは殆んどすべての訳者が，現にクリトの家に入りつつあるか或いは入ったところと考えるが，私見によれば，ここは（おそらく）エールのもとを去る段階であって，l. 4-7 に急いでクリトの家へ向うさまが描かれているのである．

5. *nṣrt* || *bkt*；どちらも ptc sf. *nṣrt* を Gordon (UT 19.1691) は syr. *nṣar* ≪to murmur, sing, grunt≫ と対応させ，Driver は ar. *ṣrr* ≪cry out, yell≫ に対応する動詞の N とする．Ginsberg や Aistleitner は *bkt*, *nṣrt* を共に地名と考えて，それぞれその後の動詞の補語としているが，これも一つの可能性をもつ ○ *pnm*: hb. *pnīmāh* ≪内部へ≫ (Virolleaud 以来)．ただし，クリトの家の奥深くということではなくて，「奥地に」あるクリトの家へ，或いは単に「遠くへ」ということの比喩だと我々は考える．

6-7. *'rm* は常に *pdrm* と対で現れる (cf. IK 110 注)；ここの *-m* は p であろう ○ *tdu*は √d'y (: hb. *d'h* ≪飛ぶ≫) の impf s3f (**tad'uyu*) (Virolleaud, Driver, Aistleitner)．その主体は š'tqt という人物なので，「飛ぶ」は可笑しいとして，Gordon は *tbu* (√bw' ≪入る≫) と訂正し，Gray は *'rm*, *pdrm* の *-m* を ≪from≫ と解しつつ，*tdu* を ar. *da'da'* と対応させて ≪急ぐ≫ と訳す．しかし「飛ぶ」は急いで行くことの比喩ととってもよいし，或いは実際に飛ぶ魔力を持つと考えられていたのでもあろう ○ *mh* || *šrr*であることは推定できるが語義が不明．まず *mh* については Driver, Aistleitner は *mt* (√m't ≪100≫) と読み，*'rm* ≪町々≫への修飾とする；Gray は ar. *mahiha* ≪to be gentle≫ との対応によって ≪静かに≫ とする．*šrr* の訳も ≪certain, sure≫ (: ar. *šrīrā* ≪in truth≫) (Driver), ≪klein≫ (: ak. *šerru* ≪小さな≫) (Aistleitner, WU), ≪secretly≫ (: ar: *sirran*) (Gray), ≪over a multitude≫ (Ginsberg, *mh* を ≪over a hundred≫ とした上での類推？) と様々であるが，何れも賛成し難い．

8. 原文も壊れているし，語義を他のセム語と確実に対応させ得ないた

め，Ginsberg や Driver は部分的にしか訳出していない．Aistleitner や Gray II が，クリト介抱の場と解釈するに対し，我々は Jirku, Gordon (UMC) とともに此処は病魔退治のさまと考える ○ *ḫṭm* は *ḫṭ* (: ak. *ḫaṭṭu* ≪杖，笏≫)+*m* (adv) (Gordon, UT 19.953). Aistleitner は此処の *ḫṭm* を ≪Stämme (部族)≫ (gen) として，前行の *šrr* と結合させる．IK 154 の *yḫṭ* と同根の副詞 ≪carefully≫ (: ak. *ḫaṭu* ≪to consider carefully≫) とする Gray の説は語義の対応に問題があろう．○ *t'mt* は √'mt の impf s3f と一応分析されるが，語義は不明．Aistleitner (WU 2052) は ar. *'mt* ≪winden (Wolle)≫ により≪彼女は (包帯を) 解く≫とするのに対し，Gray II はこの対応に同意しつつも，≪彼らは (包帯を) 巻く≫ と解する；Aistleitner が我々と同じく š'tqt を主体と考えるに対し，Gray II は (l. 10 の *tṯb* を「戻る」と訳すため) 何かの理由で彼女が町を離れている間に人々がクリトを介抱しているのだという．Gordon (UMC) のように，次行にかけて ≪With a wand she strikes the malady/The illness on its head./And she returns……≫ と訳せば，クリトの家を離れて病魔を相手にしていることになる．我々はこれに殆んど賛成しつつ *'mt* を ≪打つ≫ とするのであるが，下に述べるように l. 10 の *tṯb* を ≪戻る≫ とは解し得ないので，シャアタカトがクリトの家で (魔法の？) 杖で病魔を退けている場面だと想像する○ *'ṭrptm* はテクストに既に問題があり難解．他のセム語に対応を見出すことはできないが，次行の *zbln* と対語をなすと我々は考え，上掲の Gordon に従い ≪病魔≫ と訳した．Aistleitner らは *pt* (: ak. *pūtu*, hb. *pē'āh*) ≪額≫ と *'ṭr* (: hb. *'ṭr*, pi.) ≪囲む≫ との合成語で，額を囲むものすなわち ≪こめかみ≫ とする．こうすると次行の「頭」とパラレルになる．

9. lit.「悪鬼をその頭において」．Driver や Jirku は病むクリトの頭から病気を追出すと解しているようだが，*'l* ≪上≫ とあるのでやや無理であろう．Jirku はエリシャが自分の杖を死んだ子供の顔に当てさせて生き返らせようとした記事 (列王下 4: 29) を引いて，此処もクリトの頭に杖

をおいたと見る．このエリシャの故事との対応は，Jirku とはやや異なる解釈の上に立つ拙訳からも認められよう．なお *zbln* を Ginsberg, Aistleitner (MK), Gray が ≪病人≫ と訳すのに対し，我々は Driver, Jirku, Gordon, Aistleitner (WU) が ≪病気≫ としたのと同じ意味において，V 21 におけると同様ここでも ≪悪鬼≫ と訳す．Aistleitner (WU 878) によると，*zbl* は例えば IIIK: II 4, 6 のように *yrḫ, ršp* などの神名と結合するときには ≪Fürst≫, IIK: V 25 のように人称接辞等を伴なうものは ≪Fürstentum≫, IK 98, 186 のように単独では≪Kranker≫ と訳し分けられるようだ．そして *zbln* は (IK 17 では *-m* を伴って現れる) ≪Krankheit≫ とされる．このように意味環境に応じて訳し分けられるということからも，これらの語の語義は相対立するものではないことが分る．悪鬼——というよりデーモン，Fürst——が病気そのものであり，それに取付かれた者が病人だという古代人一般の信仰をこの *zbl* (*n*) という語の用例からうかがうことができよう．

10. *tṯb* を Aistleitner は √ytb ≪坐る≫ ととるに対し，我々は Driver, Gordon, Gray と共に √twb ととる．但しこれらの訳者のように≪彼女は戻つて…≫ と訳すべきではなく，≪wiederholt…≫ (Jirku) が正しい．何故ならこの直後に接続詞なしで *trḫṣ* という impf の動詞が来ており，接続詞で結合された二つの動詞が二つの別個の動作を表わすのに対し，接続詞なしの結合は一つの動作を二語で説明している (cf. 日本語の「帰って洗う」と「洗いかえす」) とほぼ言い得るからである；cf. SS 56 *yṯbn* [][57] *yspr lḫmš* ≪繰返し五度物語る≫; hb. *'āšūbāh 'er'eh* ≪もう一度私は飼おう≫ (創世記 30: 31) ○ *bd'ṯ* は *b*+*d'ṯ* (: hb. **zē'āh*, ar. *dā'atā*, syr. *du'tā*, ak. *zu'tu*) ≪汗≫ (Ginsberg, Driver, Gordon, Aistleitner). Gray は *bd'ṯ* を ar. *bd'* ≪始める≫ と対応させて ≪she began≫ すなわち ≪she gave a new…≫ として次行に続ける．なおこの *d'ṯ* ≪汗≫ に基づき，イザヤ 53：11 の従来 ≪彼の知識≫ と訳された *da'tō* は≪彼の汗≫ とすべきだという Dahood の提唱 (HAL p.220 に拠る) は，これ

が基本語彙に属すること，固有の *zē'āh ≪汗≫ が既存すること，da'at ≪知識≫と同形異義になることなどを考慮すれば，容れられない．

11. npš を Driver, Aistleitner, Jirku らは ≪咽喉≫, Ginsberg, Gordon, Gray らは ≪食欲≫ とするが，後者は前者からの転義であるから，何れでも結局は同じ．

12. brlt の "系統" は不明だが，その現れるすべての箇所で npš とパラレルになっているから ≪のど≫ 又は ≪食欲≫ とされる ○ lḥm || ṯrm (: ar. srm II, syr. šeram, ak. šarāmu ≪砕く≫) も 6 例中 1 例を除いて認められる．

14. lan は √l'y (: ak. le'ū ≪vermögen, überwinden≫——AHW) (WU 1430, UT 19. 1342) の pf. s3f (?)+suf. s3m; *la'aya(t)-nu (?) ○ pqdはhb. pqd, ak. paqādu 等との対応によって ≪命ずる≫ (Ginsberg, Gordon, Gray), ≪要請する≫ (Aistleitner, Driver) 等と訳される．しかし hb. pqd の "Grundbedeutung" は ≪vermissen, sich bekümmern≫ (Koehler, Lexicon, p. 773) であり，ak. pqd も ≪よく気を付ける≫ (Bezold) だから，此処は文脈も考慮して ≪気が付いてあたりを見廻す≫ という意味が推定される．

18. mgṯ の語義については ≪供物≫ (: hb. muggāš ≪供物≫) Virolleaud, Driver), ≪猟獣≫ (Gaster), ≪犠牲用の仔羊≫ (: ar. ǧṯṯ ≪切刻む≫) (Aistleitner, Gray), ≪a lambkin≫ (Gordon) 等が提唱されているが，我々は imr との対照上 ≪仔山羊≫ とした ○ iṯrm は l. 12 ṯrm と同根の動詞．

22. yṯb を Gray のみ≪坐る≫，他は≪帰る≫とする○ l'dh は l (prep) +'d (hb. 'ōd ≪継続状態≫, ar. 'ādat ≪習慣≫) ≪不断の様，習慣≫ (Ginsberg, Driver 等) +h (suf s3m). ≪according to his custom≫ (Gray) は文脈上不可．Gordon (UT 19. 1814) は 'd を ≪throne room≫ とし，創世記 49：27 の 'ad も斯く解し得るというが，疑問である．

23. ここの yṯb は文脈上当然ながら，すべての訳者によって ≪坐る≫

とされる.

24. =VAB: D 47. ただし，これと統合する前行の動詞が異なる.

26. Driver, Gordon, Gray らと共に Ginsberg の訳 ≪And his inward parts do instruct him≫ に従う. すなわち *ggn* はおそらく *gngn* (II AB: VII 49, ここでは‖*npš*) と同義で, ak. *gannu* ≪羊の内臓≫ (AHW) などによって ≪内部≫とされ，これは ≪良心≫ を意味するという. Aistleitner (WU) は ak. *gāgu* ≪Tempelbordell, AHW によれば女修道院の一種≫ により ≪宦官≫ とする ○ *ywsrnn* は √wsr (: hb. *ysr*, ak. *asāru*) の D impf s3m+suf s3m.

29. *ištm'* は √šm' の Gt ≪自分の神経を集中させて聞く≫ ぐらいの意か. なお uruištami' (PRU III 10.044-8′, 11.790-13′) (: hb. *'eštmōa'*) という地名は少なくとも形態的にはこれと関連しよう.

30. *tqġ* は √yqġ (: hb. *yqṣ* ≪目覚める≫, ar. *yaqiẓa*, ak. *eqēṣu* ≪目覚めている≫) の juss s2m (Dahood, UF p.17); Ginsberg, Gordon (UT 19.1144) は Gt imp (*wattaqiġ*) とし，Aistleitner (WU 2432) は √qġ (cf. hb. *ṣ'h*, ar. *ṣaġā* ≪傾ける≫) ≪傾ける≫ の juss s2m として *udn* をその目的語とする. *udn* は Jirku, Gray によって *tqġ* の主語 (≪es sei aufmerksam dein Ohr≫—Jirku) とされるのに対し，我々は Gordon (上掲箇所: ≪be alert of ear≫), Dahood (上掲箇所) に従って *tqġ* の補語となる副詞的対格とする. ○ *kġz* 以下 l. 35 まで王クリト弾劾の言葉と察せられるが意味不明の箇所が多い. l. 31 までは特にそうで, Ginsberg が "unintelligible" といっている程. 我々はほぼ Driver に従い, *ġz*, *ġzm* を √ġzw (: ar. *ġazā*≪侵略する≫) の動詞 (pf s3m) および名詞 (p); *tdbr* を √dbr (: hb *dbr* pi —イザヤ 32: 7等—, ak. *dab/pāru* D ≪遠ざかる≫—HAL p. 201 に拠る) の N impf s2m; *ġr* を≪山≫; *-m*を副詞的接尾辞; *tṯwy* を √ṯwy (ar. *ṯawā* ≪住む≫) の impf s2m とした. Gordon (UT 19. 1954) は *ġz* を ≪強い≫ とするが Gray もいうように ≪強い≫ は *'z* である. 我々の解釈と最も異なる Aistleitner

の訳を示せば ≪Während (*k*) du den ärgsten Gewaltmenschen (*ġz ġzm*) nachgibst (*tdbr*), Und (*w*) Betrüger (?) (*ġrm*) [bei dir aufnimmst] (*tṯwy*)≫ となっている．このように此処は王の病衰による無能を詰るところと我々は解釈するのに対し，Gordon や Aistleitner は王の暴政への非難ととっている．

32. lit.「あなたの手をあなたは過誤の中へ落した」；すなわち，*šqlt* は √ql ≪落ちる≫ の Š pf s2m (Aistleitner, WU 2408)；*ġlt* は cf. ar. *ġlw* ≪規を越える≫ (Aistleitner, WU 2143). Driver は *šqlt* を pass, *ġlt* を ar. *ġāyillatu* ≪sudden disaster≫ によって ≪collapse≫ としつつ此処を ≪Thou art brought down by thy failing power≫ と訳している．

33. *y/tdn dn almnt* は IID: V7 ID 23 にも見られ，これ以外の √dn の用例は1例のみ○以下2行（および 1. 47-49）の impf を Driver に従って ≪…し得ない≫ と訳したのは此処も王の無能を責めているところと見たからである；cf. l. 35-36.

34. *qṣr npš* は lit. ≪息の短い者≫. cf. hb. *wattiqṣar napšō* (民数21: 4, 士師 10: 16)；これは普通 ≪短気になる≫ と訳される．

35. *aḫt* は *aḫ* ≪兄弟≫ から派生した動詞，pf s2m (Ginsberg, Gordon, Driver) ○ *km* は ≪because≫ (Gordon, UMC), ≪as≫ (Gray) ≪when ?≫ (Driver) 等と訳されるが，我々は強意辞 *kī*+*mā* と考える○次の行へかけての意味は王が長患いをしていたということ．

36. *aḫt* || *anšt*. √'nš: ar. *'anisa* ≪親しむ≫；Aistleitner は前行の *aḫt* を ≪妹≫ としたように，これを ≪女友達≫とする．

39-40. Driver, Jirku は *'l abh* を *ytb'* と統合させるが，これは対句構造上，他の訳者のように *y'rb* と統合させるべきである．

48. *ṯšm* は √ṯšš (: hb. *šss* ≪掠奪する≫) の ptc p (Virolleaud, Ginsberg, Driver 等). *'l* は普通 *'al* (prep) と読まれるが，我々は Driver に従って hb. √'wl (*'awīl* ≪男児≫, *'ūl* ≪嬰児≫) と対応させる．*dl*:

hb. *dal* ≪無力な，貧しい者≫．なおこの箇所とアモス 5：11 *lkn y'n bwšskm 'l dl* との対応が Ginsberg によって暗示されながら未解決だったのを，最近 T. L. Fenton がとり上げ (UF p.65-6)，この hb. *šs* は *šss* の inf cst であり，*'l* は *'al* ではなくて *'ūl* と読まるべきことを提唱した．彼の訳によるとアモス 5：11 は ≪therefore because of your despoiling the child of the poor…≫ となる．

48-50. *lpnk* (lit ≪汝の顔に対し≫) || *b'd kslk.* (lit ≪汝の腰の後ろに≫) Gordon (UMC 注) は此処に二重の "inclusive expression" を見る．すなわち「前」と「後」とで「すべての側」を，「孤児」と「寡婦」とで王の保護を要するあらゆる不幸な人を指すという．*b'd* 以下を Gray は「あなたの背後には寡婦が居る」のように，また Aistleitner は ≪du drehst der Witwe den Rücken≫ と訳すが，共にパラレリズムを無視したものである．対句の第1句の動詞が第2句で省略されるのは対句構造の一つの型である (cf. 拙稿『アナト神話』p. 37).

54-56. ここの対句構造については cf. IIIK：II 21 注.

55. *ḥrn* は hb. *bēt-ḥōrōn* という町の名 (cf. ヨシュア 10:10 16：3, 5 等) にも含まれる神名で，Gray によればこれは2世紀 B. C. の Delos 出土碑文に *'Αυρωνας* として現れ，エジプトでは 18 王朝以来崇拝された医療の神で，医療の神だから生死をも司どるといわれる．

56. *'ṯtrt šm b'l* の原義は ≪バアルの名を頂いたアシタルテ≫，≪バアルの一族のアシタルテ≫ ということであろう (cf. PTU p. 193 f). 「…の名」という型の人(神)名はウガリット—例えば *šmlbu* ≪獅子の名(？)≫ (UT 2085：13, 14), *šmmlk* ≪王の名≫ (UT 322：V：9), *^{m}šu-um-a-na-ti* ≪アナトの名≫ (PRU III p. 257)—，ヘブライ語—例えば *šmū'ēl* ≪神の名≫ (サムエル), *šem'ēber* ≪翼の名≫ (創世記 14：2) —，マリ文書—例えば *Sa-mu-^{d}Da-gan*, *Sa-mu-ú-i-la*, *Su-mu-a-mi* (APN p. 247-249)—に見られる ○ *'ṯtrt* の母音は ^{m}aš-tar-a-bi による (PRU III p. 242).

57. *gbl*：ar. *ǧabal* ≪山≫. Driver, Aistleitner 等は比喩的にとり，

次行の *šntk* を≪高慢≫として≪from the peak/of thy loftiness≫≪vom Gipfel/deiner Hoffart≫と訳す. Gordon は Byblos (: hb. *gbal*, ar. *ǧbēl*) とし, Gray は ar. *ǧbl* (sic!) ≪thick, numerous≫により≪in the exuberance≫ (of thy years) とする.

58. 文意不明. *šntk* は≪お前の年≫ (Gordon, Gray 等) が一応考えられるが, 前後との満足な結び付きを見出し得ない. *ḥpn* は≪impiety≫ (Driver, *ḥnp* と修正し ar. *ḥanafa* ≪leaned on one side≫ と対応させる), ≪fulness≫ (Gray, ar. *ḥfl* ≪abundance≫ と対応!) などと, また *t'n* は √'ny II ≪humbled≫ の pass として≪thou shalt be punished≫ (Driver→Gray) などと訳される.

奥付 (colophon) これは VI 欄の左側に相当する碑板側面の下部に, 下から上に向って, 碑板表面を上にした形で刻まれている. 同様の奥付が IIAB (CTA 4) と IAB (CTA 6): VI53-57 に見出され, 何れも *spr. ilmlk* (II AB では破損) で始まっている. これらの奥付によって, 献呈者の名 $n^iqm^ad^u$ が補なわれる (Ginsberg, Driver, Gray) ○ *ṯ'y*: ar. *ṯaġā* ≪献げる≫ (Ginsberg, Driver). Aistleitner は≪校閲する≫ (hb. *šā'ā*, ak. *šē'ū*) とする. Gordon は *krt ṯ'* の *ṯ'* と同一視し, *ṯ'* を部族の名と見て (従って *krt ṯ'* は≪*ṯ'* のクリト≫と訳される), ṯ' 人 Ilmlk を考える (cf. UT 19. 2717).

引用文献

直接参照したもののみ, 左端が略号.

AHW　H. von Soden: Akkadisches Handwörterbuch. Wiesbaden 1958 以降.

GU　J. Aistleitner: Untersuchungen zur Grammatik des Ugaritischen. Berlin 1963.

MK　J. Aistleitner: Die Mythologischen und Kultischen Texte aus Ras Schamra. Budapest 1958[1], 1964[2].

WU　J. Aistleitner: Wörterbuch der Ugaritischen Sprache,

herausgegeben von Otto Eissfeldt. Berlin 1963[1], 1967[2].

APN H. B. Huffmon: Amorite Personal Names in the Mari Texts. Baltimore 1965.

Bezold C. Bezold: Babylonisch-Assyrisches Glossar. Heidelberg 1926.

BL H. Bauer u. P. Leander: Historische Grammatik der Hebräischen Sprache des Alten Testaments. Halle 1922.

CGS S. Moscati (ed.): An Introduction to the Comparative Grammar of the Semitc Languages. Phonology and Morphology. Wiesbaden 1964.

CTA A. Herdner: Corpus des Tablettes en Cunéiformes Alphabétiques découvertes à Ras Shamra-Ugarit de 1929 à 1939. Paris 1963.

Driver G.R. Driver: Canaanite Myths and Legends. Edinburgh 1956.

Friedrich J. Friedrich: Phönizisch-Punische Grammatik. Roma 1951.

GAG W. von Soden: Grundriss der Akkadischen Grammatik. Roma 1969.

Ginsberg H. L. Ginsberg: Ugaritic Myths, Epics, and Legends. (Ancient Near Eastern Texts, Princeton 1955, p.129-155)

Gordon, UL C. H. Gordon: Ugaritic Literature. A comprehensive translation of the poetic and prose texts. Roma 1949.

〃 UMC C. H. Gordon: Ugaritc and Minoan Crete. The bearing of their texts on the origins of western culture. New York 1966.

〃 UT C. H. Gordon: Ugaritic Textbook. Grammar, Texts in transliteration, Cuneiform selections, Glossary, Indices. Roma 1965.

Gray I, II J. Gray: The Krt Text in the Literature of Ras Shamra. A Social Myth of Ancient Canaan. Leiden 1955[1], 1967[2].

HAL W. Baumgartner: Hebräisches und Aramäisches Lexicon zum Alten Testament. Lieferung I. Leiden 1967.

Jirku A. Jirku: Kanaanäische Mythen und Epen aus Ras Schamra-Ugarit. Gütersloh 1962.

JSS *Journal of Semitic Studies.*

JQR *Jewish Quarterly Review.*

KAI H. Donner-W. Röllig : Kanaanäische und Aramäische Inschriften. Wiesbaden 1962-64[1].

Köhler Köhler-Baumgartner : Lexicon in Veteris Testamenti Libros. Leiden 1953.

Meyer R. Meyer : Hebräische Grammatik. 3. Aufl. Berlin 1966-1969.

PRU *Le Palais Royal d'Ugarit.*

PTU F. Gröndahl : Die Personennamen der Texte aus Ugarit. Roma 1967.

UF *Ugarit-Forschungen.* Internationales Jahrbuch für die Altertumskunde Syrien-Palästinas. I. Neukirchen 1969.

Virolleaud Ch. Virolleaud : Le Roi Kéret et son Fils (II K) *Syria* XXII (1941) p. 105-136, 197-217, XXIII (1942) p. 1-20. Le mariage du roi Kéret (IIIK). *Syria* XXIII (1942-3) p. 137-172.

ZDMG *Zeitschrift der Deutschen Morgenländischen Gesellschaft.*

略　語　表

( ) の中が省略された部分.

abs(olutus)
adj(ectivum)
ak(kadicum)
ar(a)m(aicum)
D(oppelstamm) (qattal)
(a)et(hiopicum)
G(rundstamm)(qatal)
gen(etivus)
h(e)t(haeticum)
imp(er)f(ectum)
juss(ivus)
lit(eratus)
m(edium)h(e)b(raicum)
nom(inativus)
pass(ivum)
acc(usativus)
adv(erbium)
ar(abicum)
c(on)st(ructus)
energ(icus)
f(emininus)
Gt(=iqtatil)
h(e)b(raicum)
imp(erativus)
inf(initivus)
L(ängstamm) (qaatal)
m(asculinus)
N(if'al) (niqtal)
p(luralis)
pr(a)ep(ositio)

p(ar)t(i)c(ipium)
suf(fixum)
syr(iacum)
s(ingularis)
Š(aqtal)
tD(=taqattal)

語注の中で，イタリック体は形式，: は通時的対応，‖ は対句，《 》の中は意義又は訳を示す.

(1970. 10. 30)